



## 2022年度 決算説明会

### コマツ出席者

代表取締役社長（兼）CEO	小川 啓之
取締役（兼）専務執行役員CFO	堀越 健
執行役員経営管理部長	菱沼 聖史

2023年4月28日（金）

# 目次

## I.2022年度 決算の概要 <P3-P12>

- P4-P5 : 2022年度の概況・セグメント売上高と利益
- P6-P7 : <建設機械・車両> 2022年度の状況
- P8 : <リテールファイナンス> 2022年度の状況
- P9 : <産業機械他> 2022年度の売上高とセグメント利益
- P10 : 連結貸借対照表
- P11-12 : 中期経営計画の進捗状況

## II.2023年度の業績見通し <P13-P29>

- P14-P15 : 2023年度の見通し（概要・セグメント売上高・利益）
- P16-P17 : <建設機械・車両> 2023年度の売上高とセグメント利益の見通し
- P18 : <リテールファイナンス> 2023年度の見通し
- P19 : <産業機械他> 2023年度の売上高とセグメント利益の見通し
- P20-P25 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し（全体および地域別）
- P26-P27 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し
- P28 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し
- P29 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

## 参考資料 <P30-P42>

- P31-P33 : 2022年度 第4四半期（1-3月）の概況
- P34-P38 : 四半期毎の状況
- P39 : <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の推移
- P40-P42 : BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕

# I .2022年度 決算の概要

# 2022年度の概況

- ・連結売上高は前年比+26.4%増収の3兆5,435億円。
- ・営業利益は前年比+54.8%増益の4,907億円、売上高営業利益率は+2.5ポイント上昇し13.8%。
- ・純利益は前年比+45.1%増益の3,264億円。

金額単位：億円	2021年度 ¥112.1/USD ¥130.4/EUR ¥82.7/AUD	2022年度 ¥134.8/USD ¥140.3/EUR ¥92.5/AUD	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	28,023	35,435	+7,412	+26.4%
セグメント利益	3,155	4,935	+1,780	+56.4%
その他の営業収益（▲費用）	15	▲ 28	▲ 43	-
営業利益	3,170	4,907	+1,737	+54.8%
売上高営業利益率	11.3%	13.8%	+2.5ポイント	-
その他の収益（▲費用）	76	▲ 143	▲ 218	-
税引前純利益	3,246	4,764	+1,519	+46.8%
当社株主に帰属する当期純利益	2,249	3,264	+1,015	+45.1%
ROE	10.9%	13.7%	+2.8ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.28	0.30	+0.02ポイント	
1株当たり配当金（円）	96円	139円	+43円	
連結配当性向	40.3%	40.3%		

# 2022年度の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+28.6%増収の3兆2,966億円。  
セグメント利益は、前年比+60.9%増益の4,436億円。セグメント利益率は+2.7ポイント上昇し13.5%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+19.2%増収の856億円。セグメント利益は前年比+58.5%増益の273億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+1.4%増収の1,909億円。セグメント利益は前年並みの226億円。

□ % : 利益率 ( ): 外部顧客向け売上高

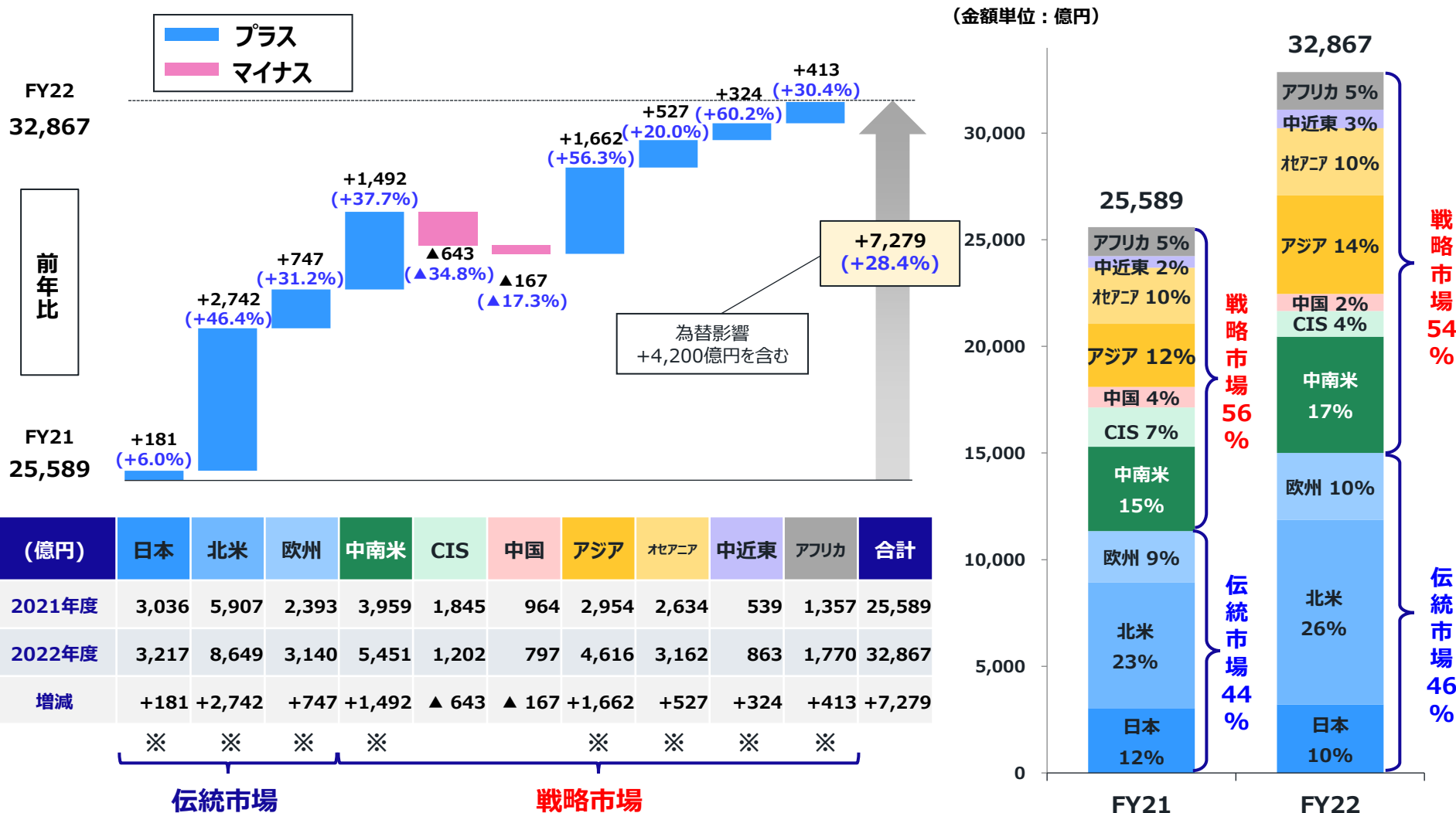
金額単位：億円	2021年度		2022年度		前年比			
					増減		増減率	
<b>売上高</b>	28,023		35,435		+7,412		+26.4%	
建設機械・車両	(25,589)	25,644	(32,867)	32,966	(+7,279)	+7,322	(+28.4%)	+28.6%
リテールファイナンス	(578)	719	(678)	856	(+100)	+138	(+17.3%)	+19.2%
産業機械他	(1,857)	1,884	(1,889)	1,909	(+33)	+26	(+1.8%)	+1.4%
消去	▲ 223		▲ 297		▲ 74		-	
<b>セグメント利益</b>	□ 11.3%	3,155	□ 13.9%	4,935	□ +2.6ポイント	+1,780	+56.4%	
建設機械・車両	□ 10.8%	2,758	□ 13.5%	4,436	□ +2.7ポイント	+1,678	+60.9%	
リテールファイナンス	□ 23.9%	172	□ 31.8%	273	□ +7.9ポイント	+101	+58.5%	
産業機械他	□ 12.0%	226	□ 11.8%	226	□ ▲0.2ポイント	▲ 0	▲ 0.0%	
消去または全社	▲ 0		1		+1		-	

## 各セグメントの状況：

- **建設機械・車両**  
為替差のプラス影響、物量増、販売価格の改善等により増収、増益。
- **リテールファイナンス**  
新規取組高の増加や、為替のプラス影響等により増収、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響等により増益。
- **産業機械他**  
自動車業界向けは、大型の鍛圧機械の売上が減少したこと等により減収、利益は前年並み。  
半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の売上が好調であったこと等により増収、コスト増により利益は前年並み。

# <建設機械・車両> 2022年度の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は、前年比+28.4%増収の3兆2,867億円。
- ・CIS、中国を除くすべての地域で増加。北米、アジア、中南米で大きく増加。
- ・伝統市場の比率は46%、戦略市場の比率は54%。



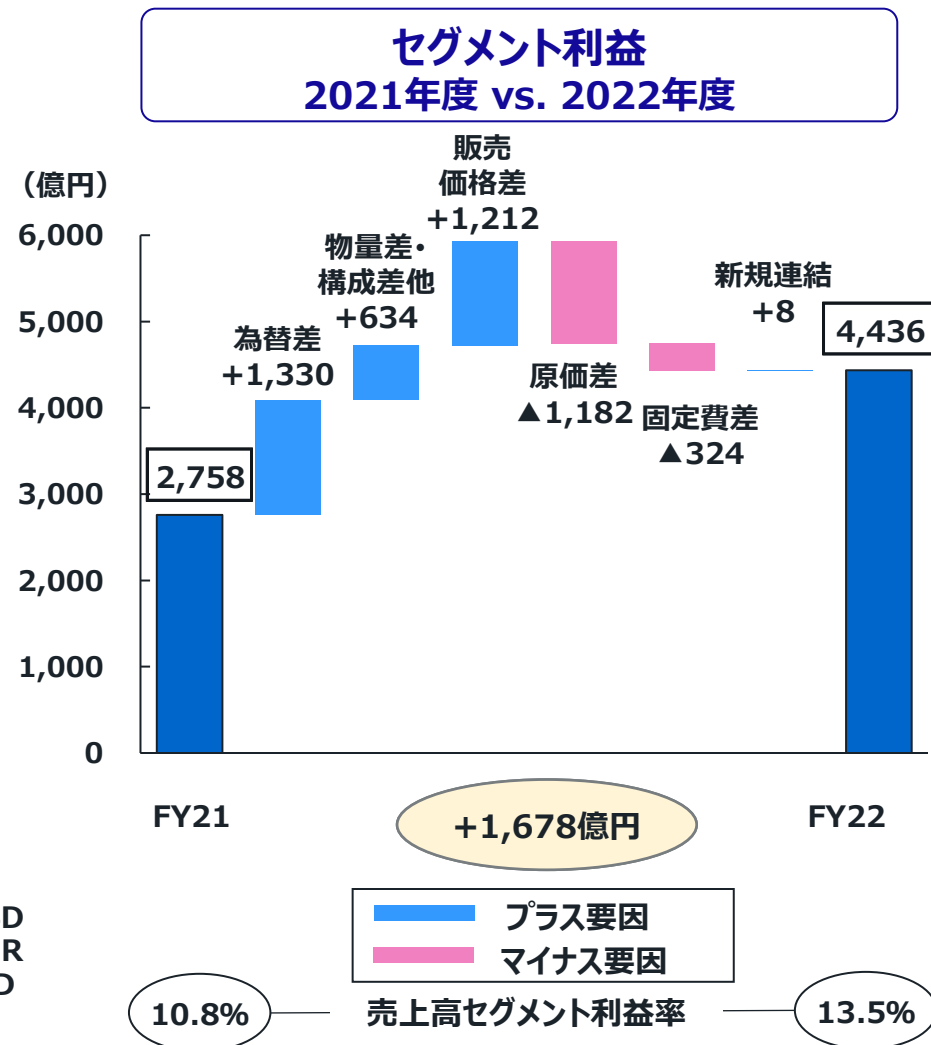
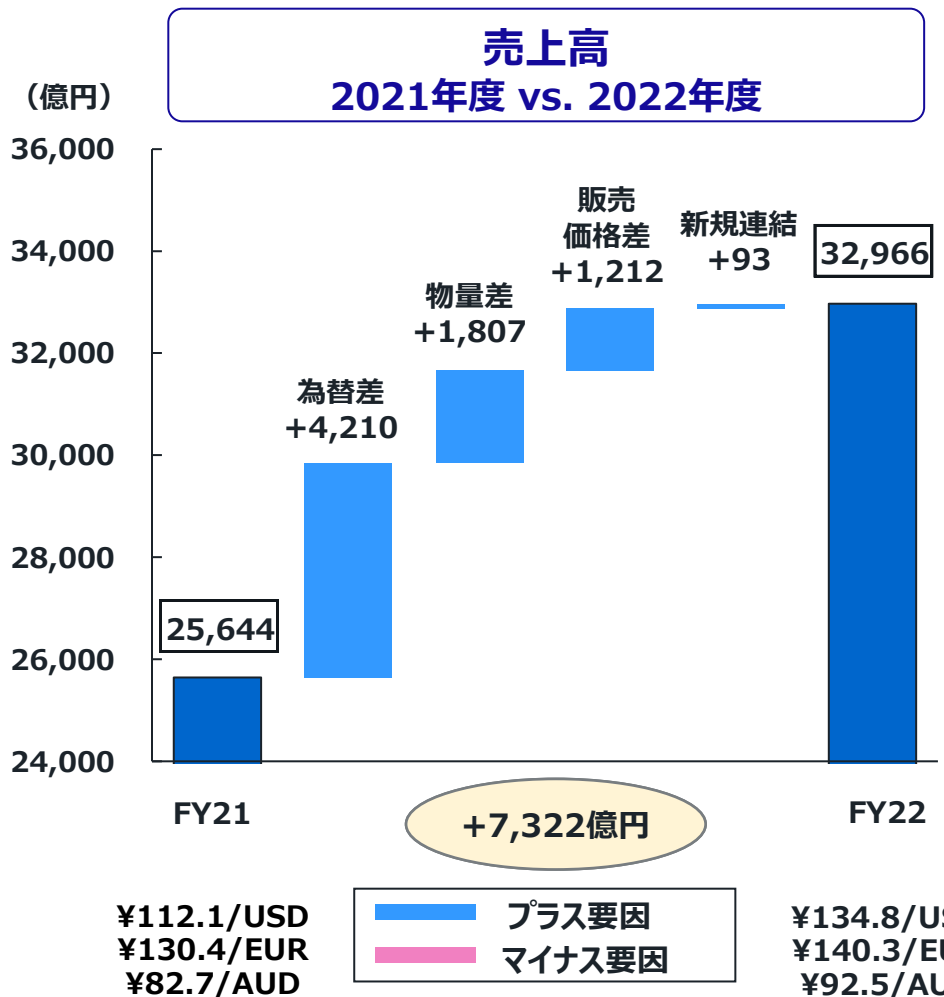
伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

# ＜建設機械・車両＞ 2022年度の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、為替差のプラス影響、物量増、販売価格の改善等により、前年比+7,322億円の増収。
- ・セグメント利益は、為替差のプラス影響、販売価格の改善等により、前年比+1,678億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+2.7ポイント上昇し13.5%。



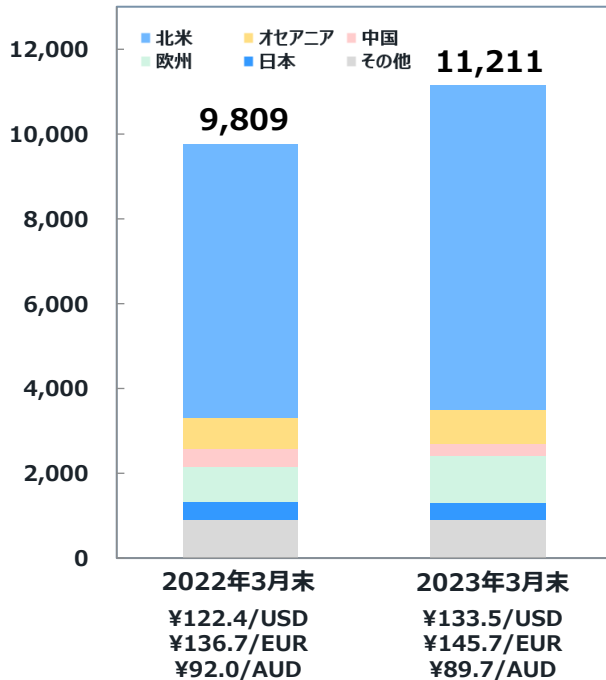
# <リテールファイナンス> 2022年度の状況

- ・資産は、為替の影響や新規取組高の増加により、前年度末比+1,402億円の増加。
- ・新規取組高は、為替の影響や建設機械・車両の販売増に伴い、前年比+2,238億円の増加。
- ・売上高は、前年に一部リース車を中古車として販売した影響があったものの、新規取組高の増加や為替のプラス影響により前年比+138億円の増収。
- ・セグメント利益は、貸倒引当金の減少や為替のプラス影響等により、前年比+101億円の増益。

## 資産

2022年3月末 vs. 2023年3月末

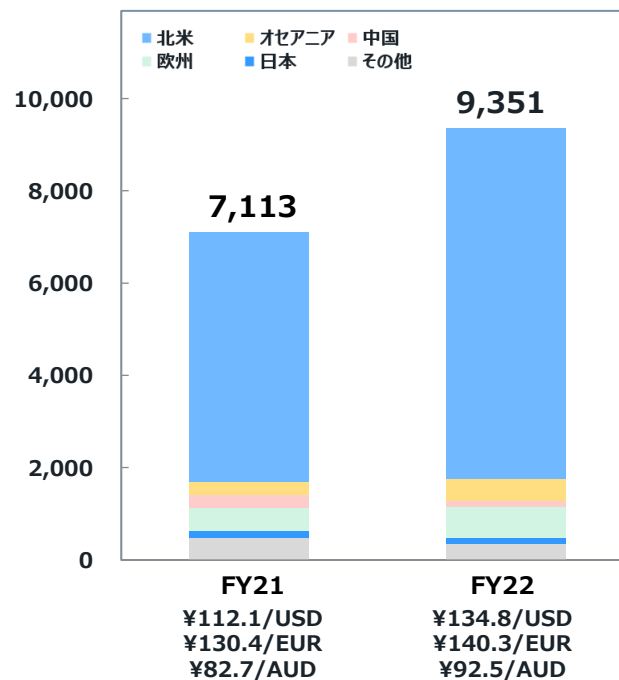
(億円)



## 新規取組高

2021年度 vs. 2022年度

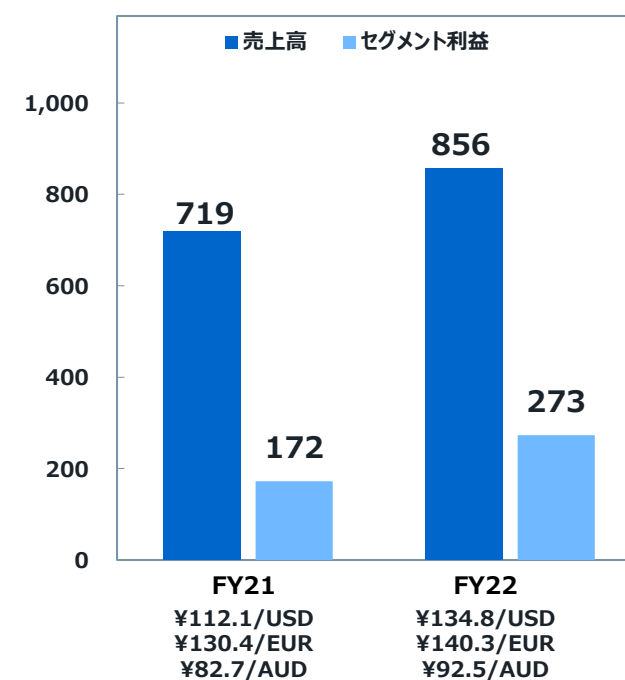
(億円)



## 収益

2021年度 vs. 2022年度

(億円)



金額単位：億円	2022年3月末	2023年3月末	前年度末比
借入金	7,342	8,569	+1,227
ネットベースの借入金	7,315	8,453	+1,138
ネットD/Eレシオ	3.51	3.77	+0.26ポイント

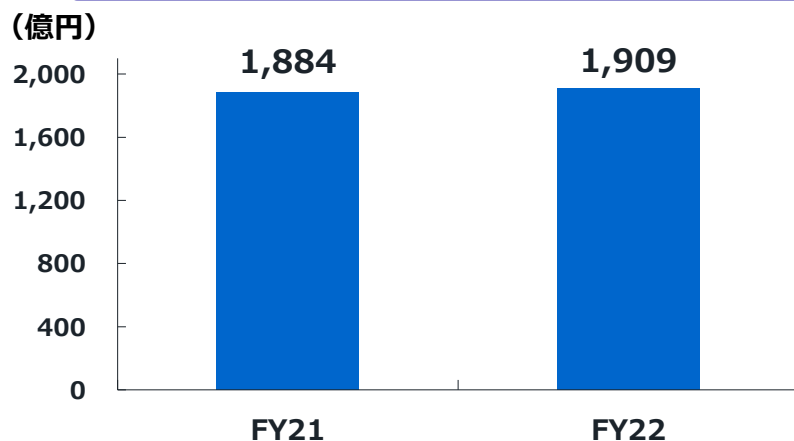
	2021年度	2022年度	前年比
ROA	1.8%	2.6%	+0.8ポイント



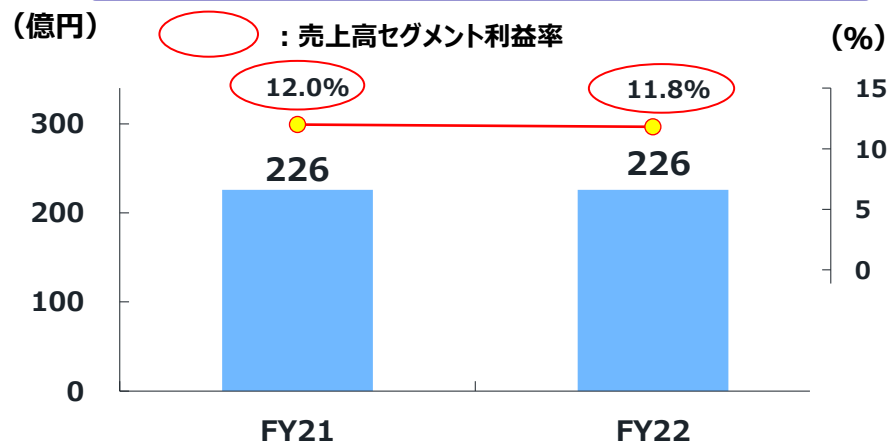
# <産業機械他> 2022年度の売上高とセグメント利益

- ・売上高は前年比+1.4%増収の1,909億円、セグメント利益は前年並みの226億円。
- ・自動車業界向けは、大型の鍛圧機械の売上が減少したこと等により減収、利益は前年並み。
- ・半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の売上が好調であったこと等により増収、コスト増により利益は前年並み。
- ・売上高セグメント利益率は11.8%。

**売上高**  
2021年度 vs. 2022年度



**セグメント利益**  
2021年度 vs. 2022年度



**売上高の内訳**

(億円)	2021年度	2022年度	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	526	426	▲100	▲19.1%
コマツNTC	381	428	+47	+12.4%
ギガフォトン	523	585	+62	+11.9%
その他	453	470	+17	+3.7%
合計	1,884	1,909	+26	+1.4%

# 連結貸借対照表

- ・総資産は、主に棚卸資産や売上債権の増加および、為替の影響により、前年度末比+5,283億円増加し4兆8,758億円。
- ・株主資本比率は、前年度末比+0.7ポイント上昇し52.1%。

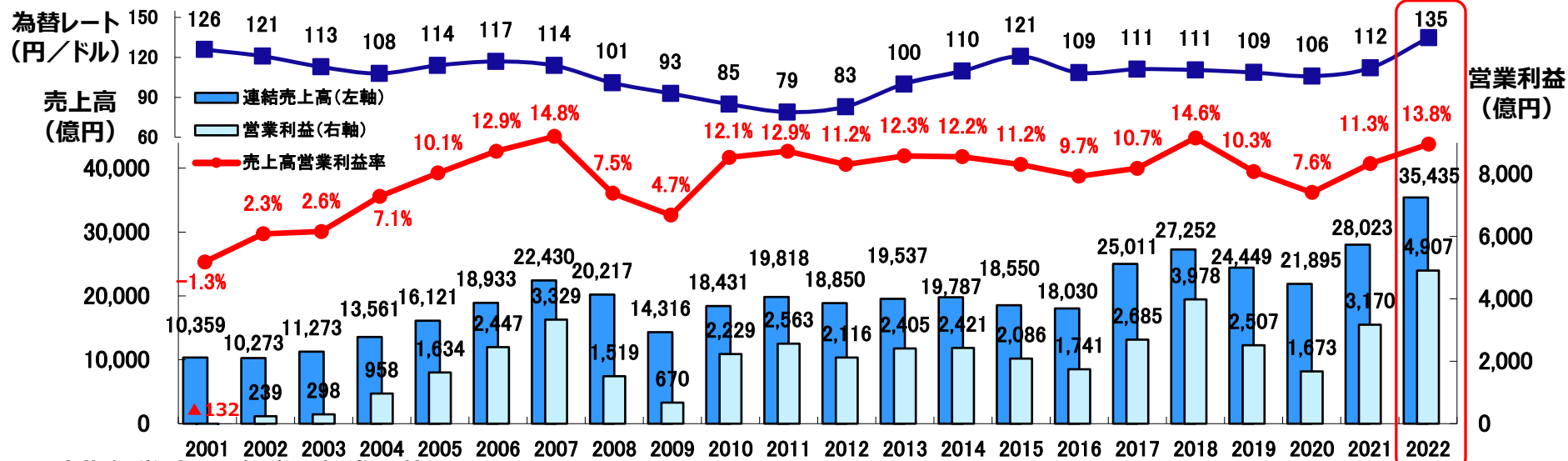
金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2022年3月末 ¥122.4/USD ¥136.7/EUR ¥92.0/AUD	2023年3月末 ¥133.5/USD ¥145.7/EUR ¥89.7/AUD	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	3,167	2,900	▲ 267
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	14,564	16,816	+2,252
棚卸資産	9,880	12,272	+2,392
有形固定資産	8,197	8,364	+167
その他資産	7,666	8,406	+740
<b>資産合計</b>	<b>43,475</b>	<b>48,758</b>	<b>+5,283</b>
支払手形・買掛金	3,390	3,624	+234
借入金・社債 [b]	9,474	10,538	+1,064
その他負債	7,049	7,818	+769
<b>負債合計</b>	<b>19,912</b>	<b>21,979</b>	<b>+2,066</b>
（株主資本比率）	（51.4%）	（52.1%）	（+0.7ポイント）
株主資本	22,325	25,396	+3,071
非支配持分	1,238	1,383	+145
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>43,475</b>	<b>48,758</b>	<b>+5,283</b>
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○0.28 6,307	○0.30 7,638	+1,331
ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	○▲0.05	○▲0.04	

# 中期経営計画の進捗状況：経営戦略の進捗状況と2023年度以降の課題

3つの経営戦略		活動の例
1.イノベーションによる成長の加速	2022年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXスマートコンストラクション：新アプリケーションの導入（SC Simulation, SC Quick 3D）</li> <li>無人ダンプトラック運行システム（AHS）の市場導入を推進</li> <li>顧客現場における大型ICTブルドーザーの遠隔操作・自動運転トライアルを開始</li> <li>建設機械見本市（ドイツ、アメリカ）に、20トンクラスの電動ショベルなどを出展</li> <li>コマツNTC、国内電池メーカーより、車載電池製造装置を初受注</li> </ul>
	2023年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートコンストラクションの海外展開の加速</li> <li>鉱山用オープンテクノロジープラットフォームを活用したビジネス展開</li> <li>電動化建機の本格的な市場導入</li> <li>森林管理ソリューションビジネスの確立</li> <li>コマツNTCにおける車載電池製造装置事業の強化</li> </ul>
2.稼ぐ力の最大化	2022年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアを中心とした都市土木仕様の油圧ショベル（CEシリーズ）の拡販</li> <li>メンテナンス契約付き延長保証の拡大とアフターマーケット事業の伸長</li> <li>チリ・コデルコ社と「マイニングTBM」のトライアル実施に合意</li> <li>豪マインサイトテクノロジーズ社を買収（坑内掘り鉱山向けソリューションプロバイダー）</li> <li>独 GHH社の買収を決定（坑内掘り鉱山機械）</li> <li>スウェーデン Bracke社を買収（植林アタッチメントメーカー）</li> <li>ギガフォトン、新生産棟の建設開始（生産能力：2.5倍）</li> </ul>
	2023年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦略地域の特性に応じた商品戦略の推進</li> <li>林業機械事業、坑内掘りハードロック事業の一層の強化</li> <li>次世代KOMTRAXを活用したビジネスモデルのグローバル展開</li> <li>リマン・リビルド事業の強化</li> </ul>
3.レジリエントな企業体質の構築	2022年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>坑内掘り石炭（ソフトロック）中国事業・中国建機事業の構造改革</li> <li>CSIRT構築による情報セキュリティ体制の強化</li> <li>クロスソーシング、マルチソーシングの展開</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンに関する教育・啓蒙活動の推進</li> <li>AIおよびDX人材育成の推進</li> </ul>
	2023年度以降の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロスソーシング、マルチソーシングの一層の展開によるサプライチェーンの強化</li> <li>構造改革の継続</li> <li>DX推進による業務改革</li> <li>リスクマネジメント体制の強化</li> <li>グローバルなブランド戦略の展開、社員エンゲージメント向上施策の推進</li> </ul>

# 中期経営計画の進捗状況：年間業績推移および中期経営計画の経営目標達成状況

・成長戦略および構造改革を着実に実行。物量増に加え、為替の影響もあり、売上高、営業利益は過去最高。経営目標は概ね達成。



＜中期経営計画の経営目標進捗状況＞

	経営目標	2022年度（中計初年度）	
		指標	実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率	売上高成長率	+26.4%
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率	営業利益率	13.8%
効率性	・ ROE 10%以上	ROE	13.7%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質	ネットD/Eレシオ	0.30
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とする。	連結配当性向	40.3%
ESG	・ 環境負荷低減 CO2排出削減：2030年50%減（2010年比） 再生可能エネルギー使用率：2030年50%	製品使用によるCO2削減	※ ▲21%
		生産によるCO2削減	※ ▲42%
		再生可能エネルギー使用比率	※ 17%
外部評価	DJSI選定（ワールド、アジアパシフィック）	外部評価	DJSI選定
	CDP Aリスト選定（気候変動、水リスク）		CDP気候変動 評価 A CDP水リスク 評価 A
リテールファイナンス事業	・ ROA 1.5% - 2.0% ・ ネットD/Eレシオ 5倍以下	ROA	2.6%
		ネットD/Eレシオ	3.77

## Ⅱ.2023年度の業績見通し

# 2023年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年比▲4.6%減収の3兆3,820億円。
- ・ 営業利益は前年比+0.1%増益の4,910億円、売上高営業利益率は+0.7ポイント上昇の14.5%。
- ・ 純利益は前年比▲8.4%減益の2,990億円。

金額単位：億円	2022年度 ¥134.8/USD ¥140.3/EUR ¥92.5/AUD	2023年度 (見通し) ¥125.0/USD ¥133.0/EUR ¥83.0/AUD	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	35,435	33,820	▲ 1,615	▲4.6%
セグメント利益	4,935	4,980	+45	+0.9%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 28	▲ 70	▲ 42	-
営業利益	4,907	4,910	+3	+0.1%
売上高営業利益率	13.8%	14.5%	+0.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 143	▲ 490	▲ 347	-
税引前純利益	4,764	4,420	▲ 344	▲7.2%
当社株主に帰属する当期純利益	3,264	2,990	▲ 274	▲8.4%
ROE	13.7%	11.7%	▲2.0ポイント	
1株当たり配当金 (円)	139円	139円	±0円	
連結配当性向	40.3%	44.0%		

# 2023年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比▲4.8%減収の3兆1,380億円。セグメント利益は前年比+4.4%増益の4,630億円。セグメント利益率は+1.3ポイント上昇し14.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比▲2.5%減収の835億円。セグメント利益は前年比▲37.7%減益の170億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+5.3%増収の2,010億円。セグメント利益は前年比+1.8%増益の230億円。

□ : 利益率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2022年度		2023年度 (見通し)		前年比	
					増減	増減率
売上高		35,435		33,820	▲ 1,615	▲4.6%
建設機械・車両	(32,867)	32,966	(31,168)	31,380	(▲1,699) ▲ 1,586	(▲5.2%) ▲4.8%
リテールファイナンス	(678)	856	(645)	835	(▲33) ▲ 21	(▲4.9%) ▲2.5%
産業機械他	(1,889)	1,909	(2,007)	2,010	(+118) +101	(+6.2%) +5.3%
消去		▲ 297		▲ 405	▲ 108	-
セグメント利益	□ 13.9%	4,935	□ 14.7%	4,980	□ +0.8ポイント +45	+0.9%
建設機械・車両	□ 13.5%	4,436	□ 14.8%	4,630	□ +1.3ポイント +194	+4.4%
リテールファイナンス	□ 31.8%	273	□ 20.4%	170	□ ▲11.4ポイント ▲ 103	▲37.7%
産業機械他	□ 11.8%	226	□ 11.4%	230	□ ▲0.4ポイント +4	+1.8%
消去または全社		1		▲ 50	▲ 51	-

## 各セグメントの状況：

### ■ 建設機械・車両

販売価格のプラス影響はあるものの、為替のマイナス影響および物量減により減収。  
為替のマイナス影響や物量減、固定費増の影響を販売価格のプラス影響により吸収し増益。

### ■ リテールファイナンス

主に為替のマイナス影響より減収。  
為替のマイナス影響に加え、前年にあった貸倒引当金の戻し入れ益や、リース終了後の中古車の再販益がなくなること等により、減益。

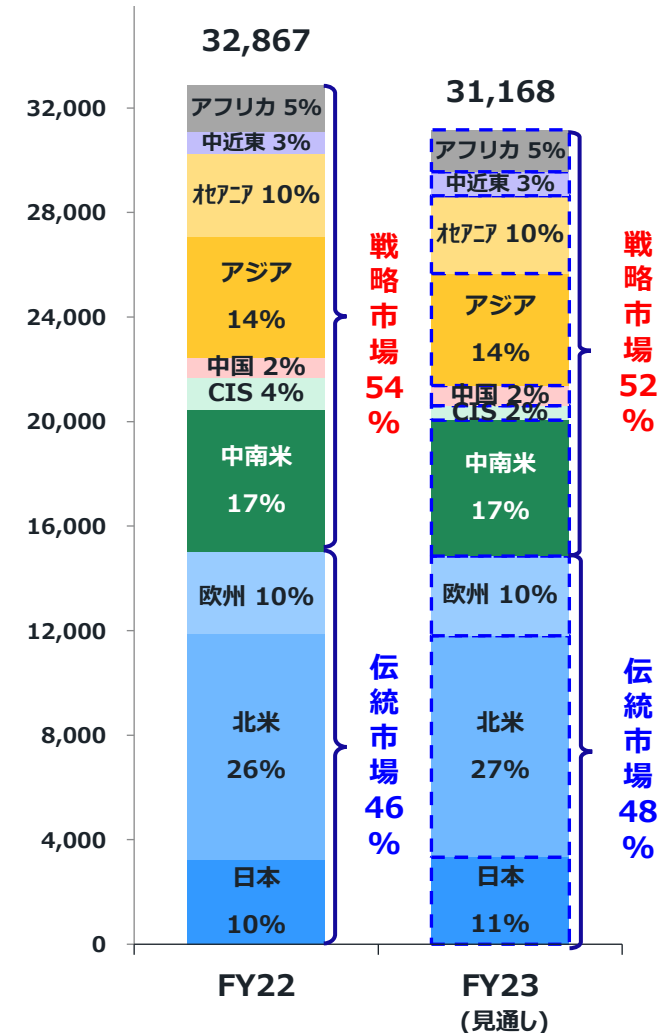
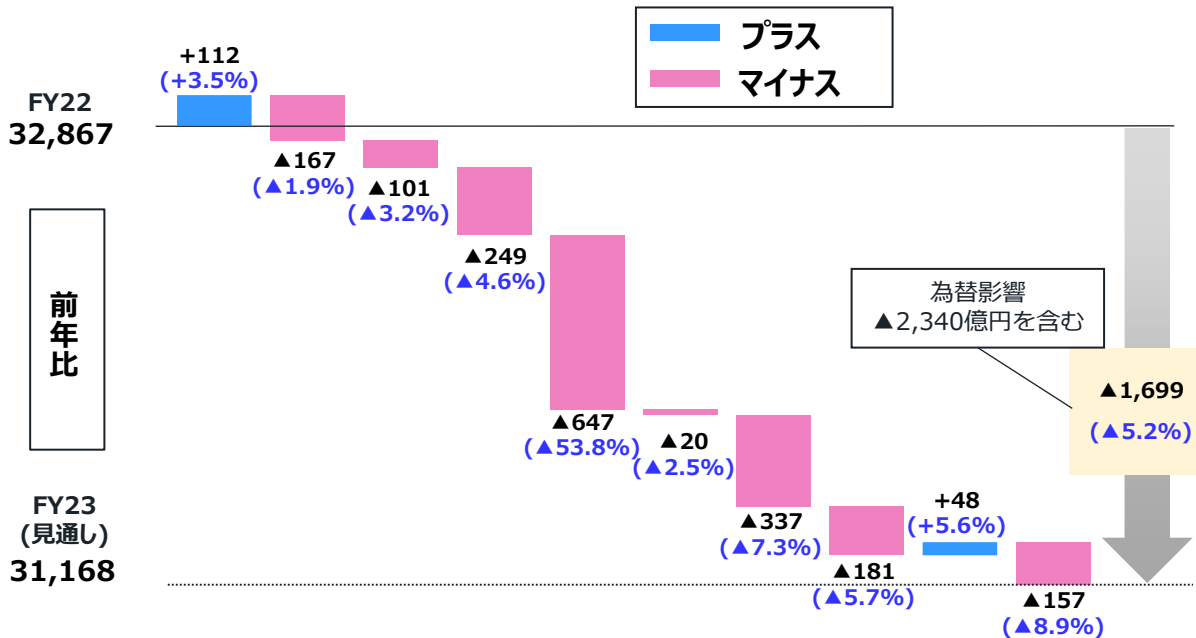
### ■ 産業機械他

自動車産業向けの大型の鍛圧機械、半導体産業向けのエキシマレーザー関連等が増加し、増収、増益。

# <建設機械・車両> 2023年度地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・外部顧客向け売上高は前年比▲5.2%減収の3兆1,168億円の見通し。
- ・為替のマイナス影響▲2,340億円を除くベースでは、CIS以外の全ての地域で増収。
- ・伝統市場の比率は48%、戦略市場の比率は52%。

(金額単位：億円)



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2022年度	3,217	8,649	3,140	5,451	1,202	797	4,616	3,162	863	1,770	32,867
2023年度 (見通し)	3,329	8,482	3,039	5,202	555	777	4,279	2,981	911	1,613	31,168
増減	+112	▲167	▲101	▲249	▲647	▲20	▲337	▲181	+48	▲157	▲1,699

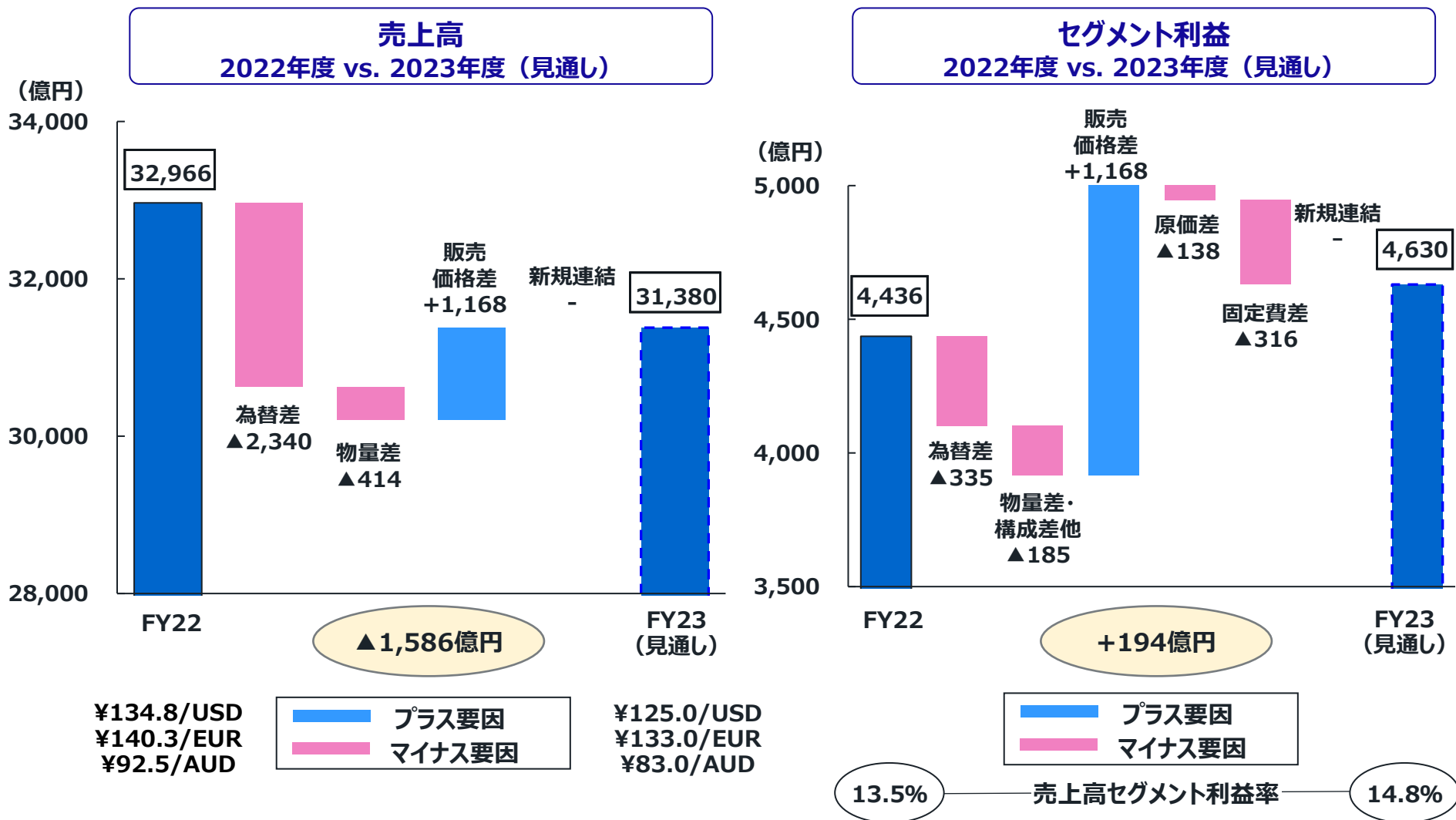
伝統市場

戦略市場



# <建設機械・車両> 2023年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

- ・売上高は、販売価格のプラス影響はあるものの、為替のマイナス影響および物量減により、前年比▲1,586億円減収。
- ・セグメント利益は、為替のマイナス影響や固定費増等を販売価格のプラス影響により吸収し、前年比+194億円増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比+1.3ポイント上昇し14.8%。

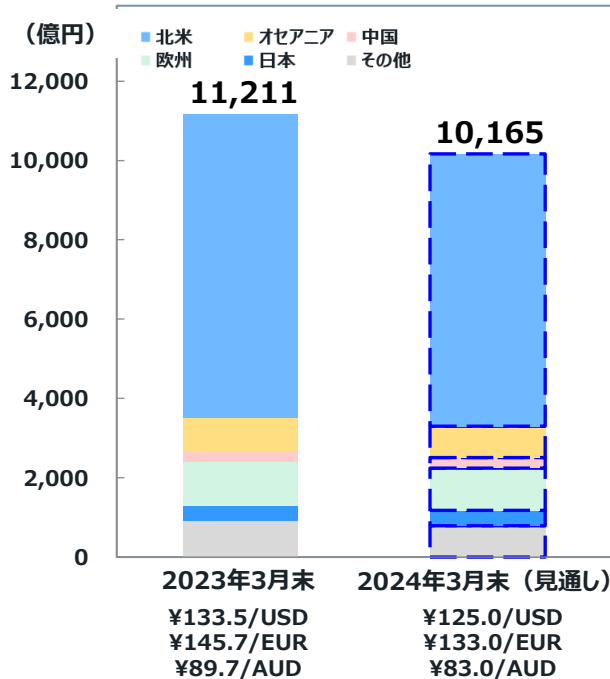


# <リテールファイナンス> 2023年度の見通し

- ・資産は、主に為替の影響により、前年度末比▲1,046億円の減少。
- ・新規取組高は、主に為替の影響により、前年比▲823億円減少の見通し。
- ・売上高は、主に為替の影響により、前年比▲21億円減収の見通し。
- ・セグメント利益は、為替の影響に加え、前年にあった貸倒引当金の戻し入れ益や、リース終了後の中古車の再販益がなくなること等により、前年比▲103億円減益の見通し。

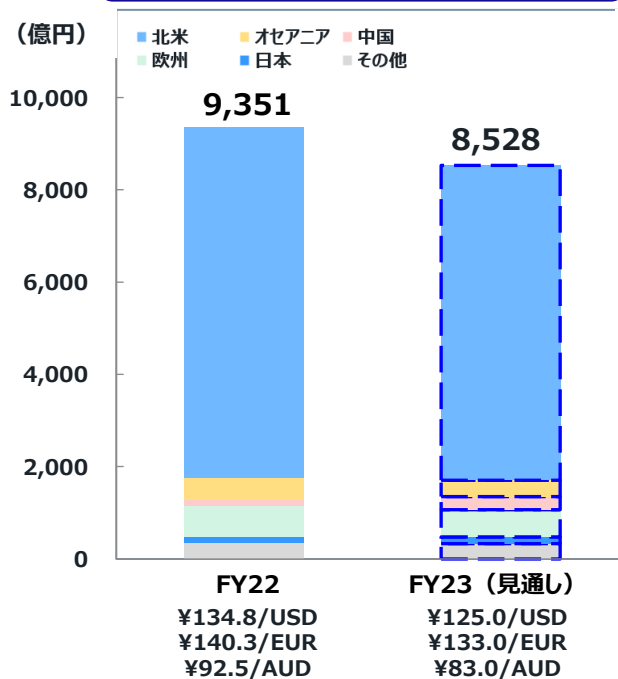
## 資産

2023年3月末 vs. 2024年3月末  
(見通し)



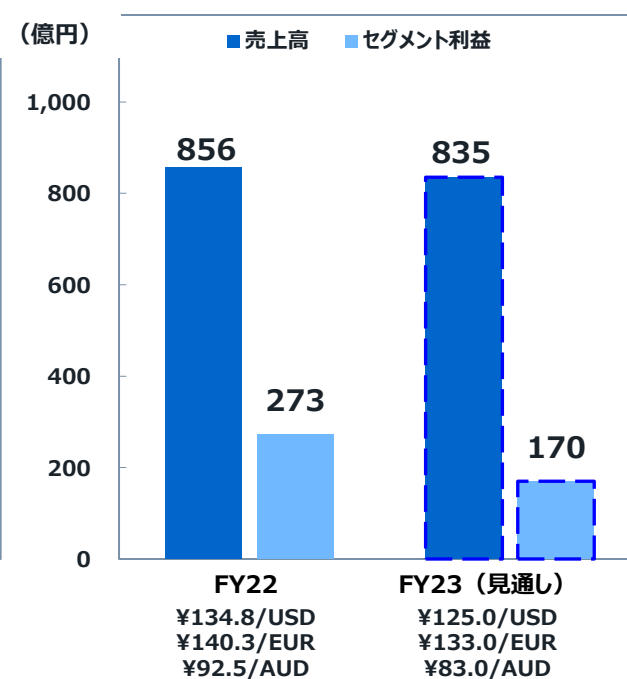
## 新規取組高

2022年度 vs. 2023年度  
(見通し)



## 収益

2022年度 vs. 2023年度  
(見通し)



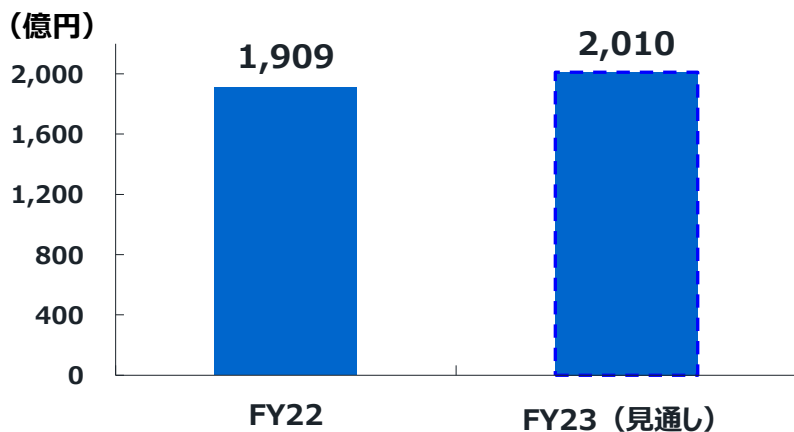
金額単位：億円	2023年3月末	2024年3月末 (見通し)	前年度末比
借入金	8,569	7,843	▲726
ネットベースの借入金	8,453	7,740	▲713
ネットD/ELレシオ	3.77	3.49	▲0.28ポイント

	2022年度	2023年度 (見通し)	前年比
ROA	2.6%	1.6%	▲1.0ポイント

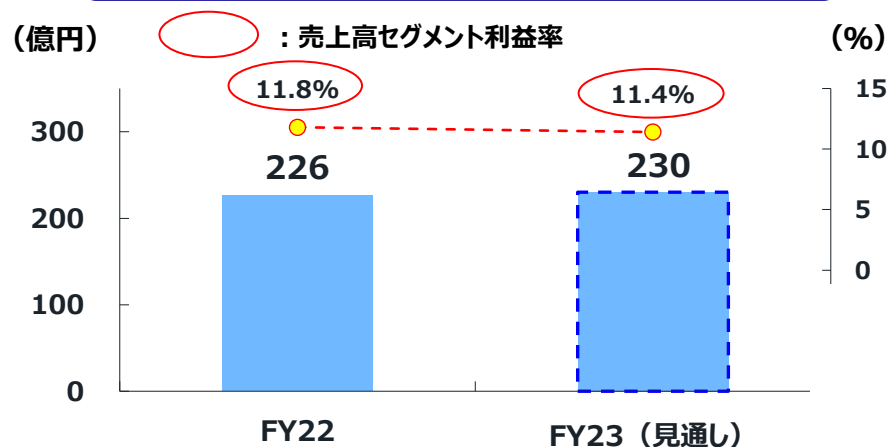
# <産業機械他> 2023年度の売上高とセグメント利益の見通し

・売上高は前年比+5.3%増収の2,010億円、セグメント利益は前年比+1.8%増益の230億円となる見通し。

**売上高**  
2022年度 vs. 2023年度 (見通し)



**セグメント利益**  
2022年度 vs. 2023年度 (見通し)



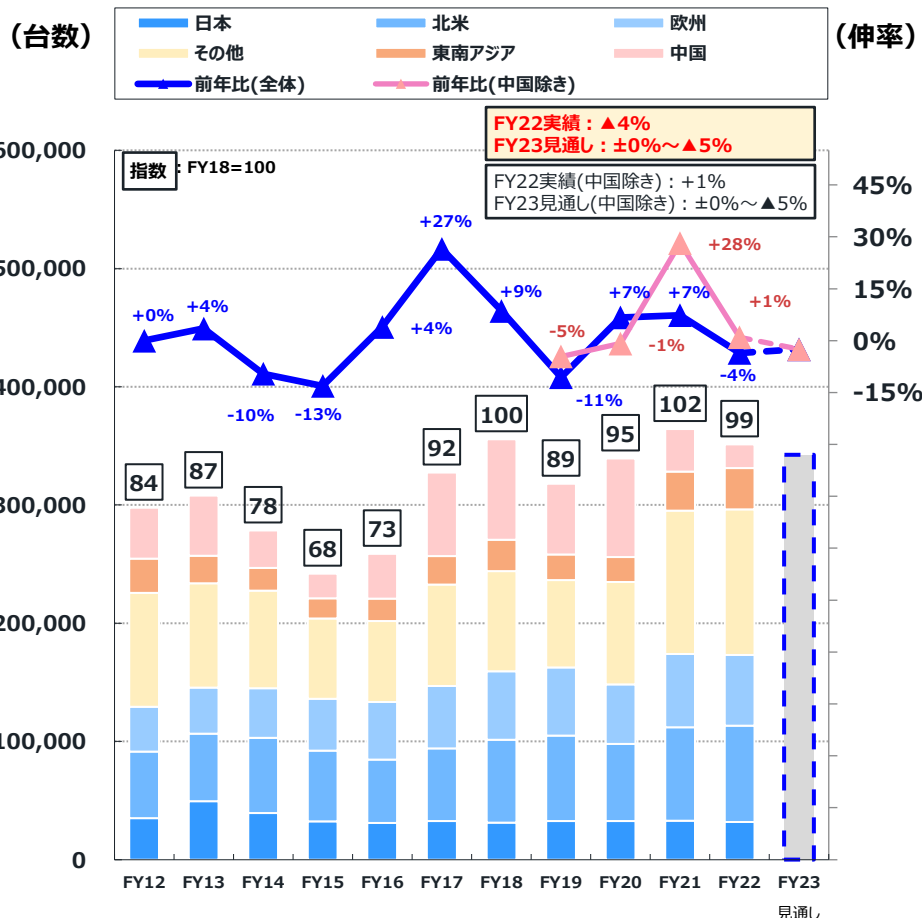
**売上高の内訳**

(億円)	2022年度	2023年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	426	466	+40	+9.3%
コマツNTC	428	427	▲1	▲0.1%
ギガフォトン	585	626	+40	+6.9%
その他	470	491	+21	+4.5%
合計	1,909	2,010	+101	+5.3%

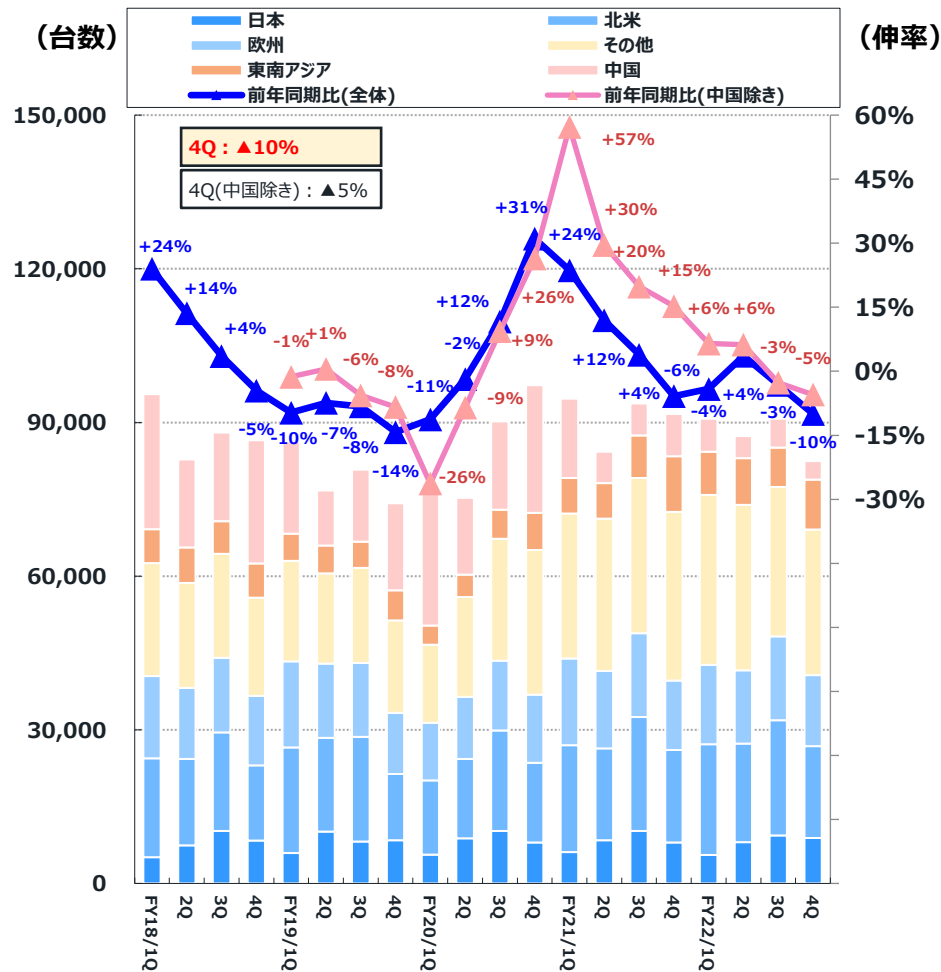
# ＜建設機械・車両＞ 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2022年度の需要は、前年比▲4%の減少。中国を除く地域では、前年比+1%の増加。
- ・2023年度の需要は、前年比±0%～▲5%、中国を除く地域では、前年比±0%～▲5%の見通し。

## 主要7建機 年度別需要推移



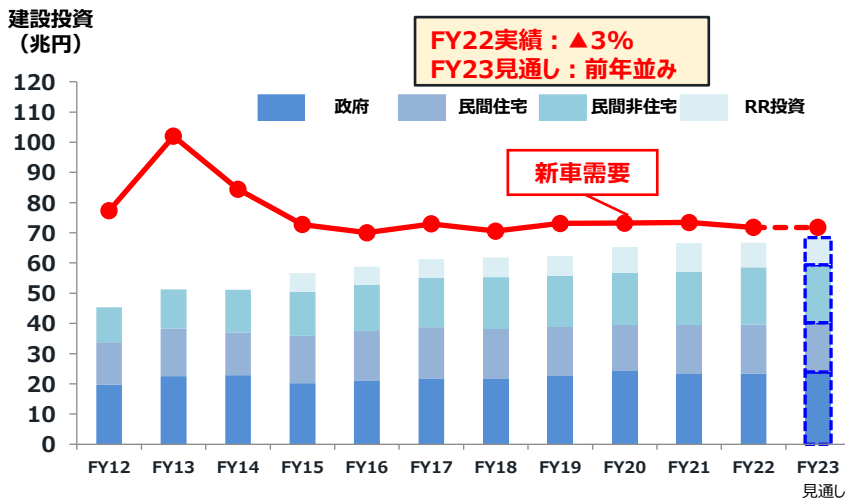
## 主要7建機 四半期別需要推移



# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

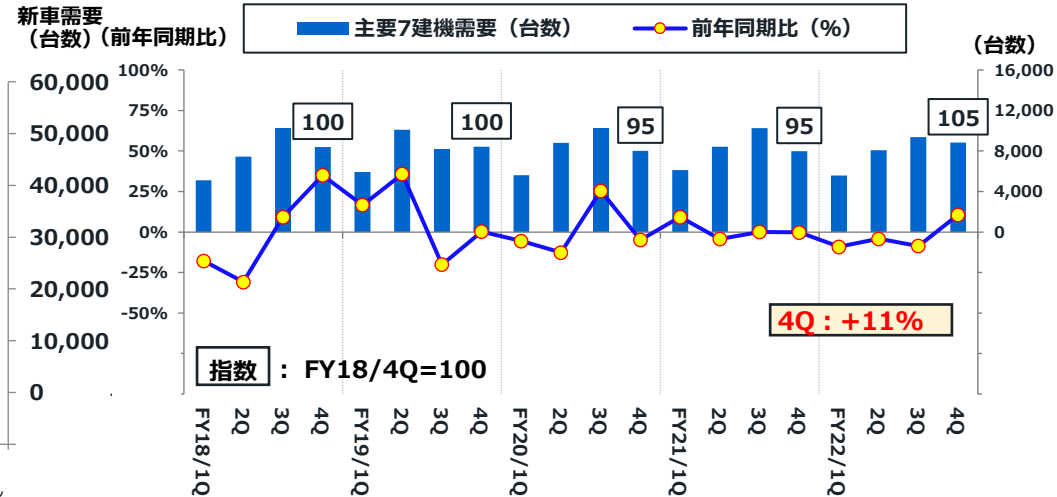
- ・2022年度の需要は、前年比▲3%の減少。サプライチェーンの混乱による供給遅れの影響もあり、需要は減少。
- ・2023年度の需要は、前年並みの見通し。

## 新車需要（主要7建機）と建設投資

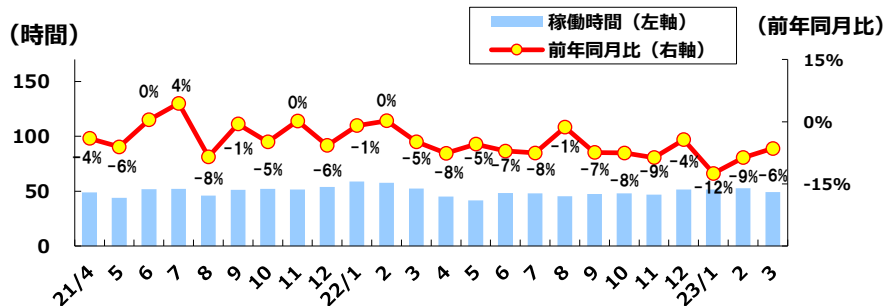


【出所】主要7建機需要：コマツの推定 建設投資：国土交通省／建設経済研究所

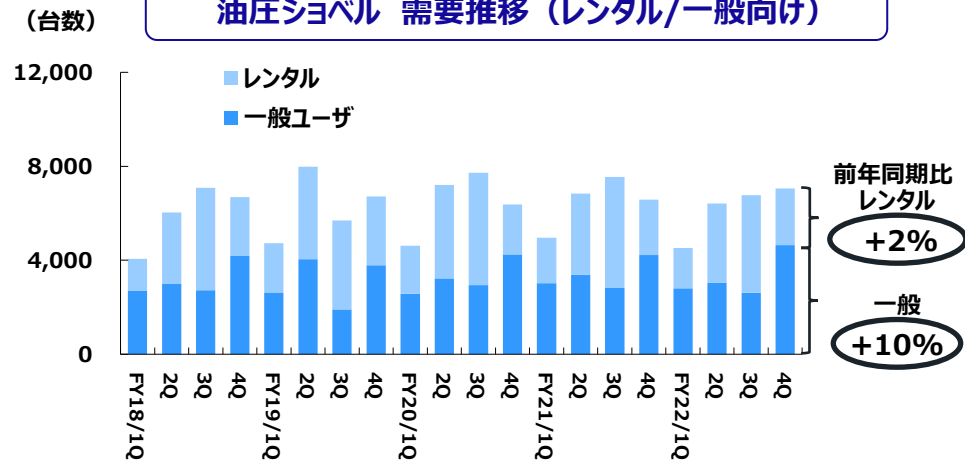
## 主要7建機 四半期別需要推移



## Komtrax（日本）月平均稼働時間推移



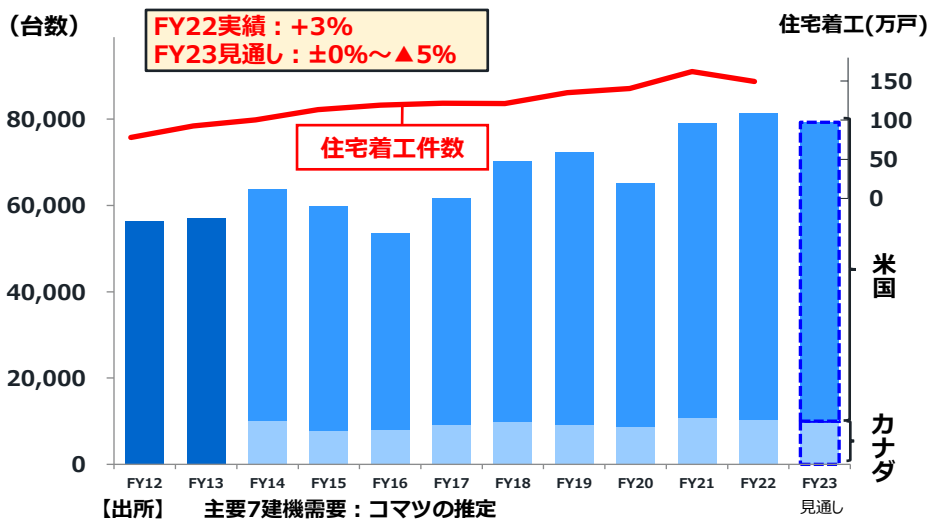
## 油圧ショベル 需要推移（レンタル/一般向け）



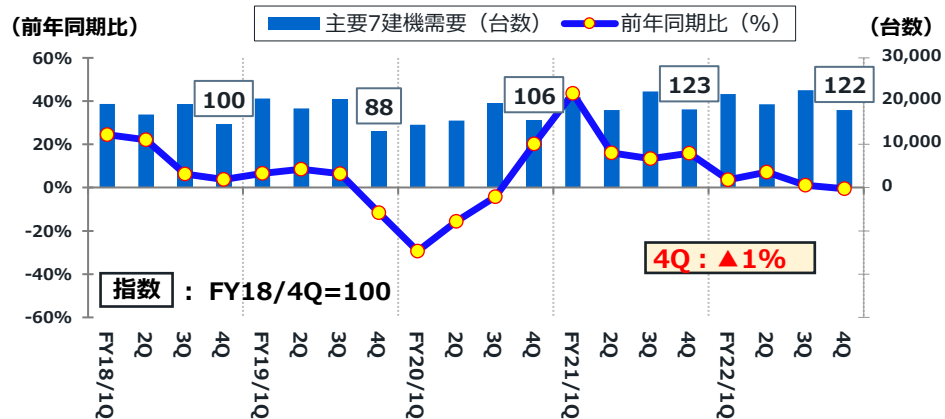
# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・2022年度の需要は、前年比+3%の増加。住宅向けが減少したものの、レンタル向け、インフラ向け、エネルギー向けで増加。
- ・2023年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

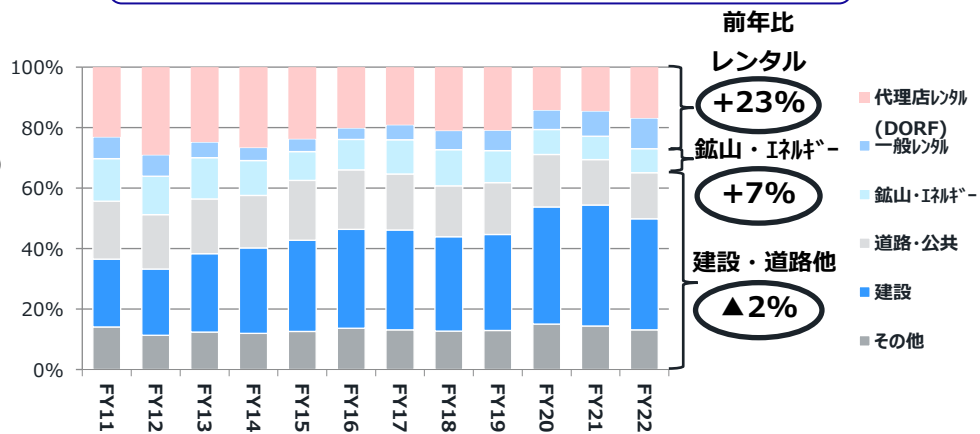
## 主要7建機 需要推移と住宅着工件数



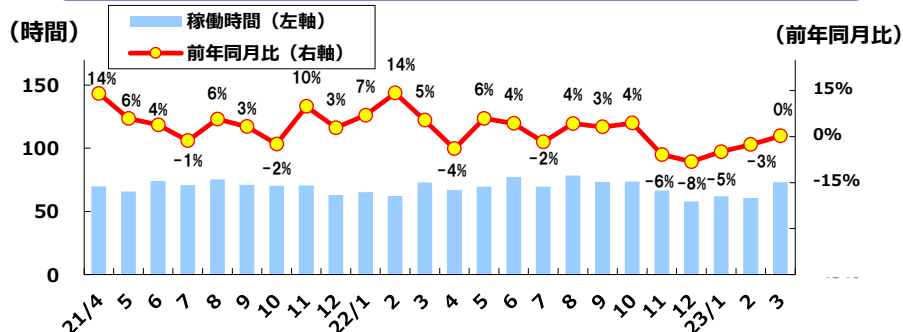
## 主要7建機 四半期需要推移



## セグメント別需要構成比 (台数ベース)



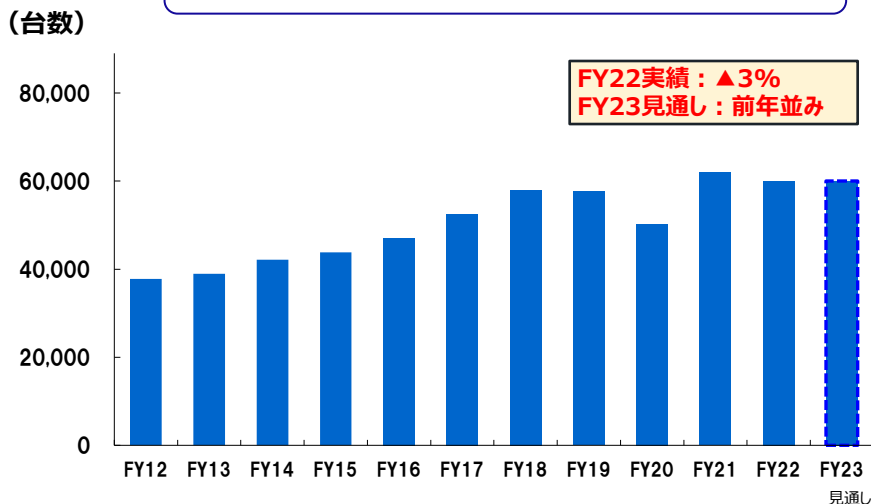
## Komtrax (北米) 月平均稼働時間推移



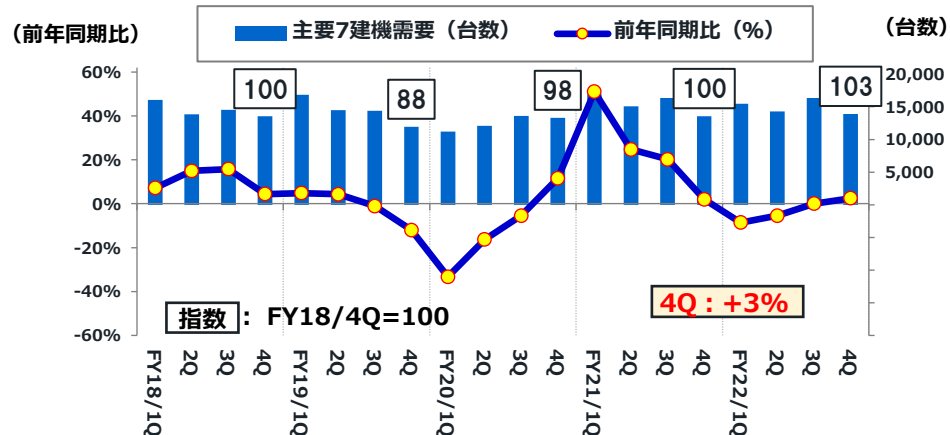
# ＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ③ 欧州

- ・2022年度の需要は、前年比▲3%の減少。エネルギー価格の高騰やサプライチェーン混乱の影響もあり、需要は減少。
- ・2023年度の需要は、前年並みの見通し。

## 主要7建機 年度別需要推移

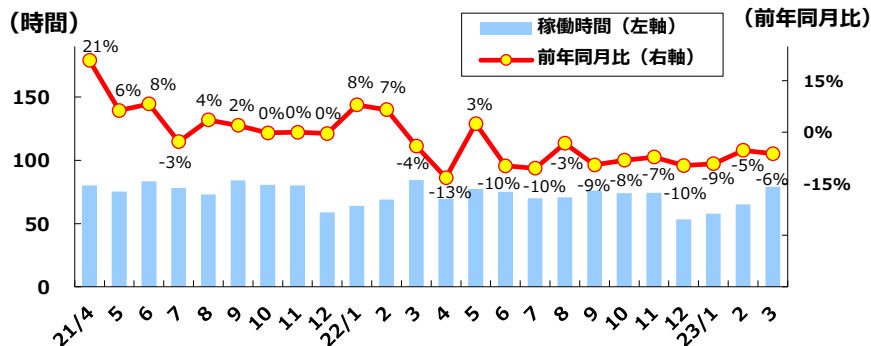


## 主要7建機 四半期需要推移

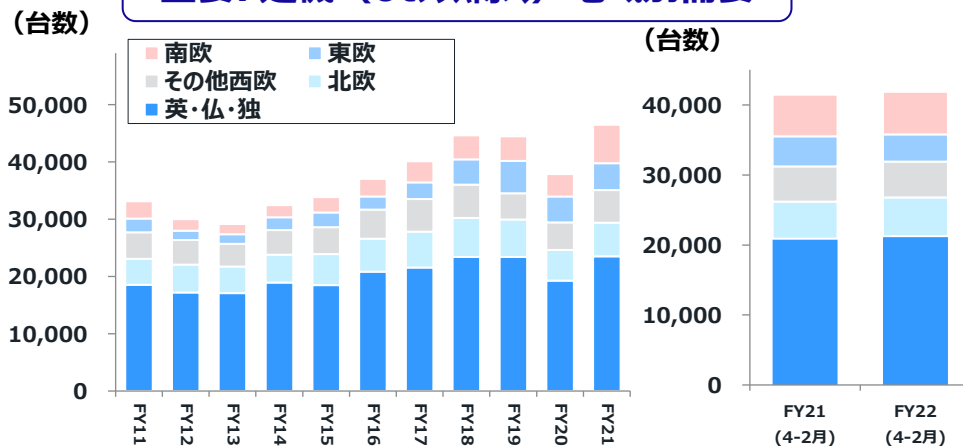


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

## Komtrax (欧州) 月平均稼働時間推移



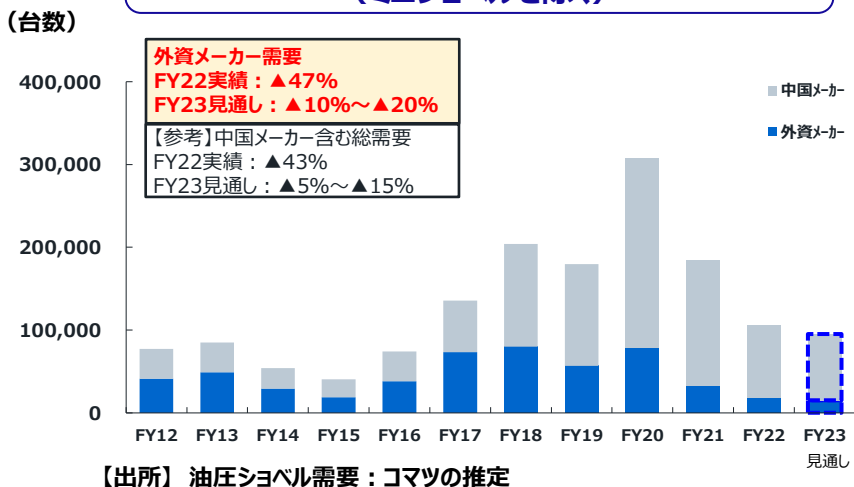
## 主要7建機 (6tクラス除く) 地域別需要



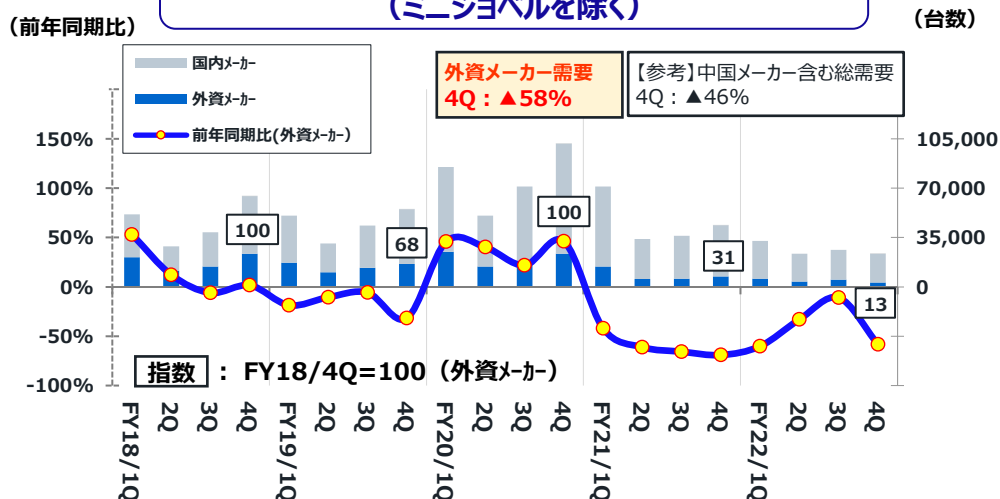
# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

- ・2022年度の需要は、前年比▲47%の減少。経済活動の停滞により、需要は大きく減少。
- ・2023年度の需要は、前年比▲10%～▲20%の見通し。

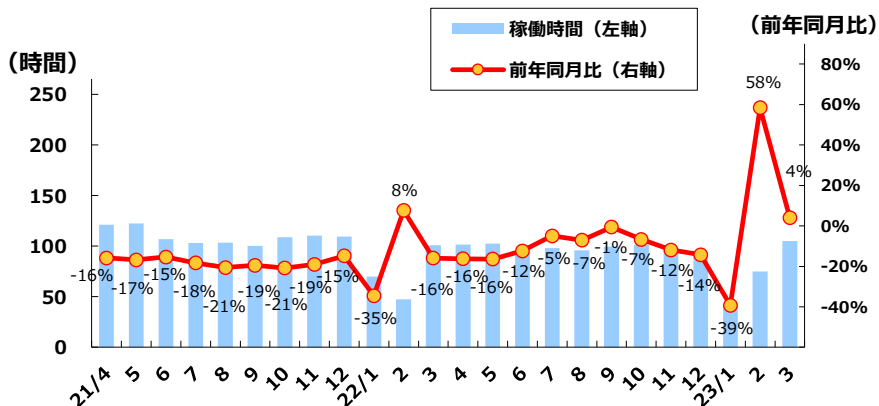
## 油圧ショベル 年度別需要推移 (ミニショベルを除く)



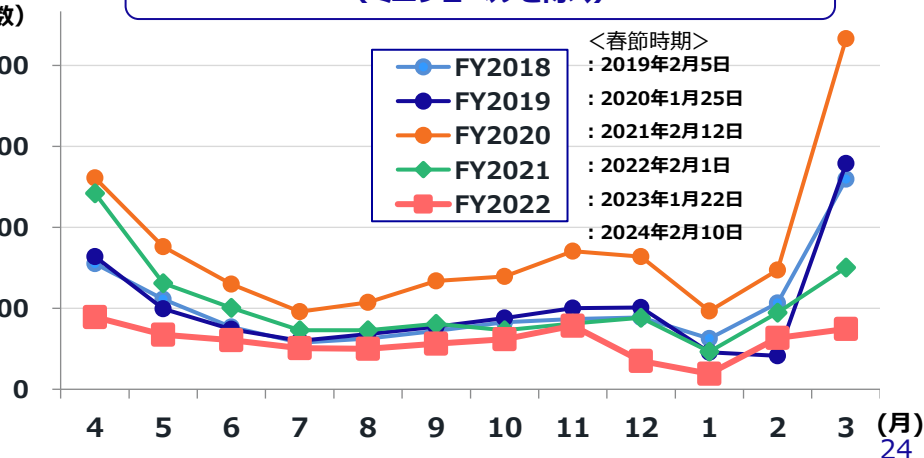
## 油圧ショベル 四半期需要推移 (ミニショベルを除く)



## Komtrax (中国) 月平均稼働時間推移



## 中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニショベルを除く)

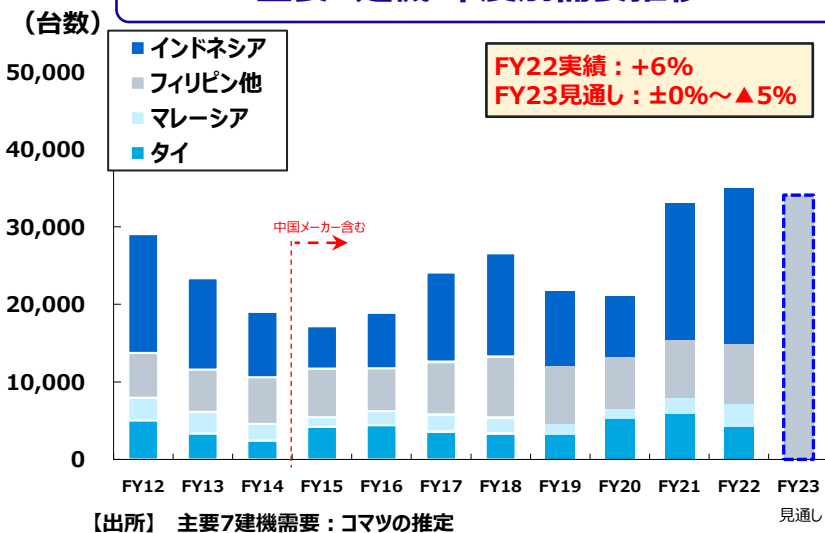




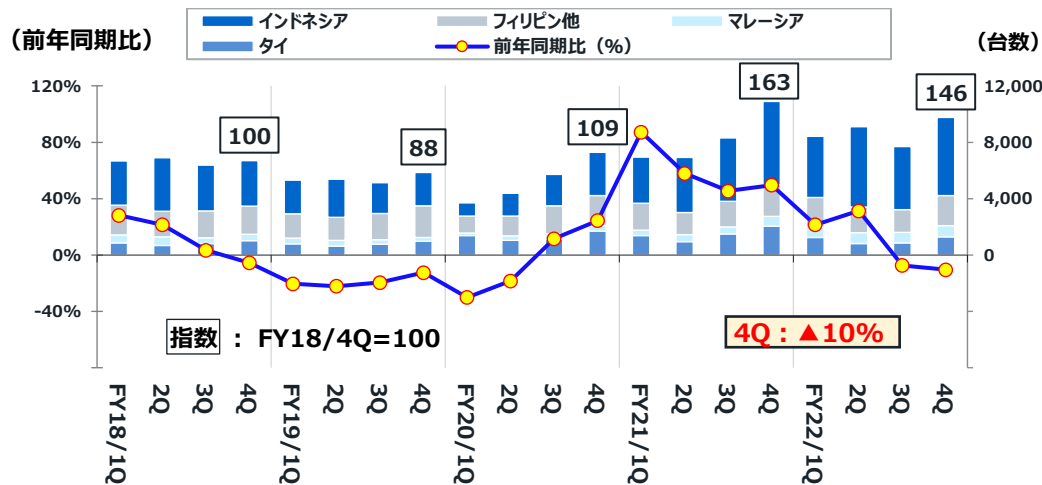
# <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：⑤ 東南アジア

- ・2022年度の需要は、前年比+6%の増加。インドネシア、フィリピン、マレーシアなどで需要が増加。
- ・2023年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

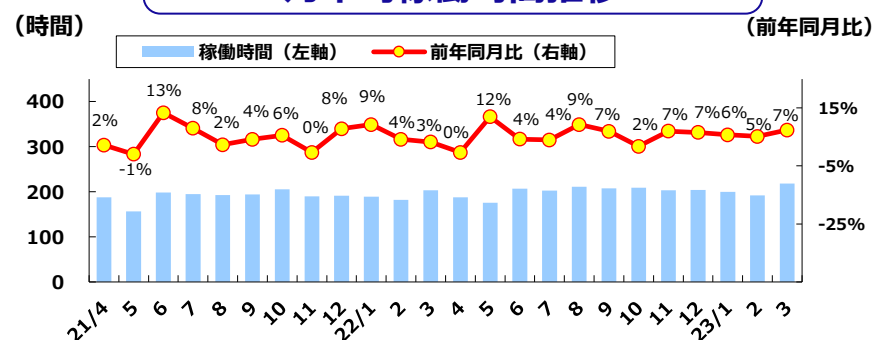
## 主要7建機 年度別需要推移



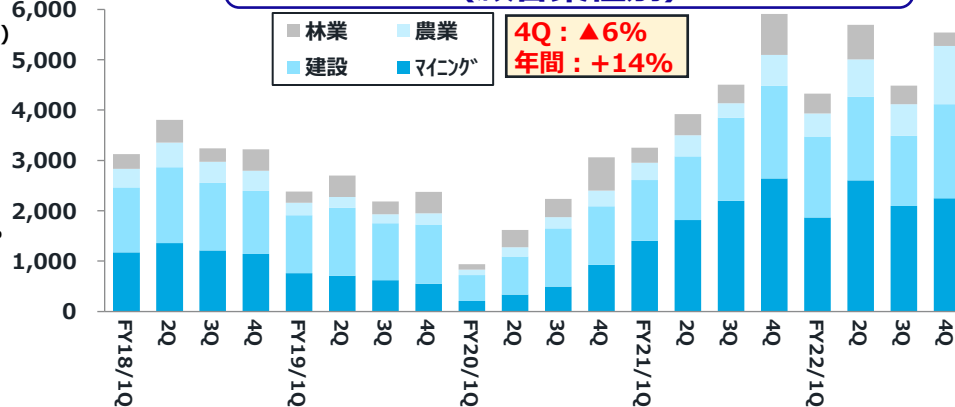
## 主要7建機 四半期需要推移



## Komtrax (インドネシア) 月平均稼働時間推移



## インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)

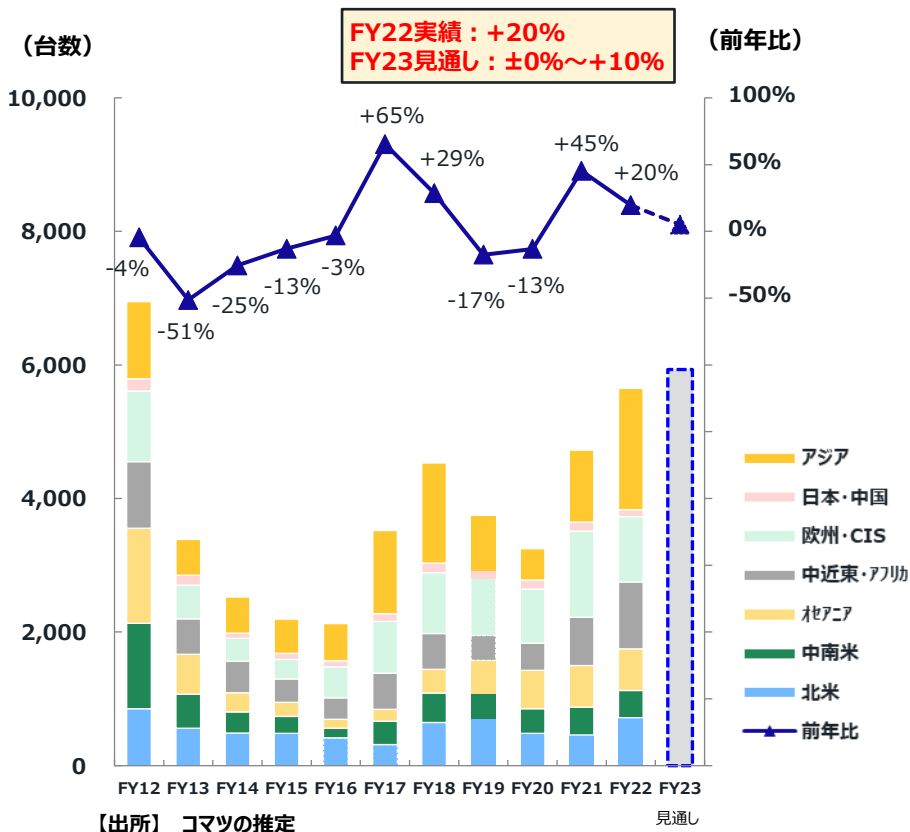


# <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

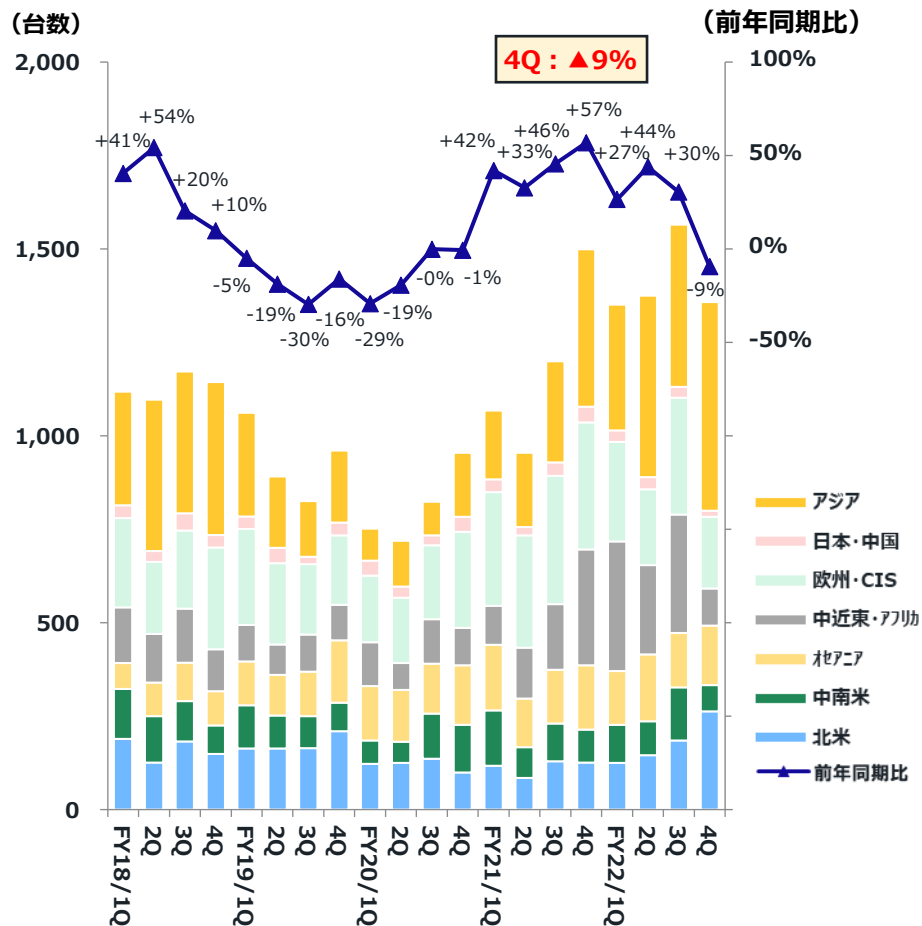
- ・2022年度の需要は、前年比+20%の増加。CISは需要が減少、アジアや北米で需要が大きく増加。
- ・2023年度の需要は、前年比±0%～+10%の見通し。

## 鉱山機械 年度別需要推移

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上
- ・フルパワー：525HP (D375) 以上
- ・クスカハータ：200 t (PC2000) 以上
- ・ホイローラ（機械駆動）：810HP (WA800) 以上
- ・モータグレーダ：280HP (GD825) 以上



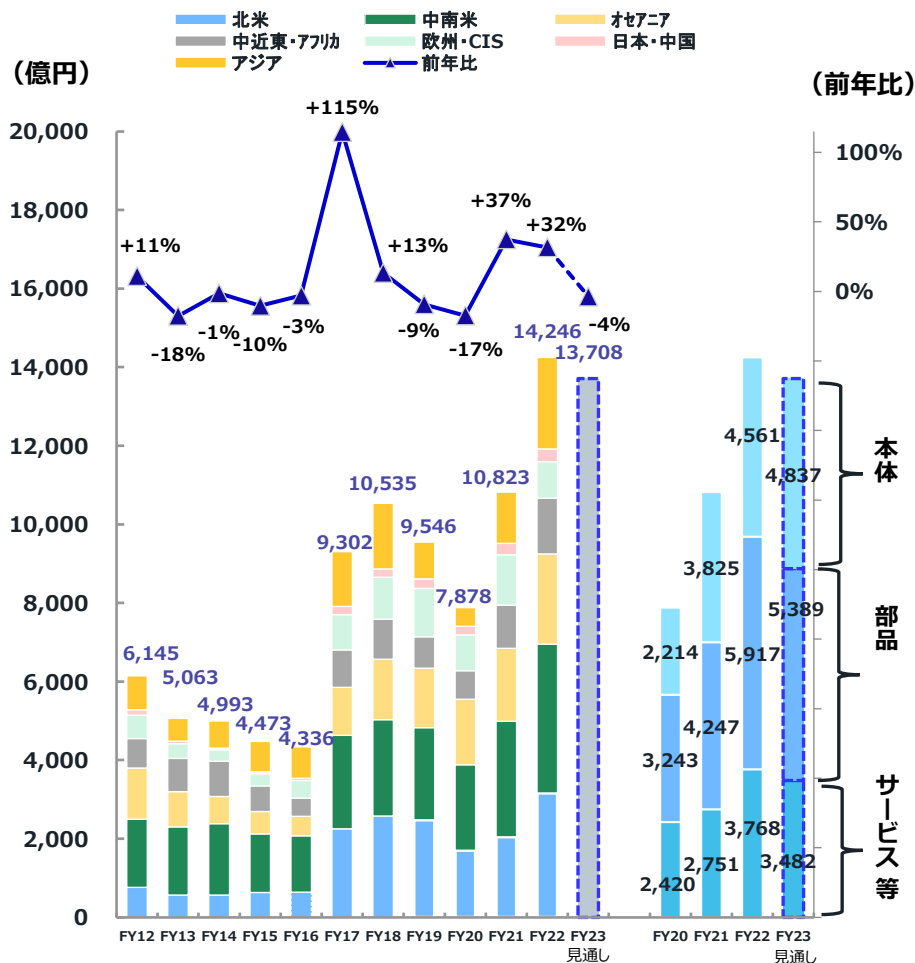
## 鉱山機械 四半期別需要推移



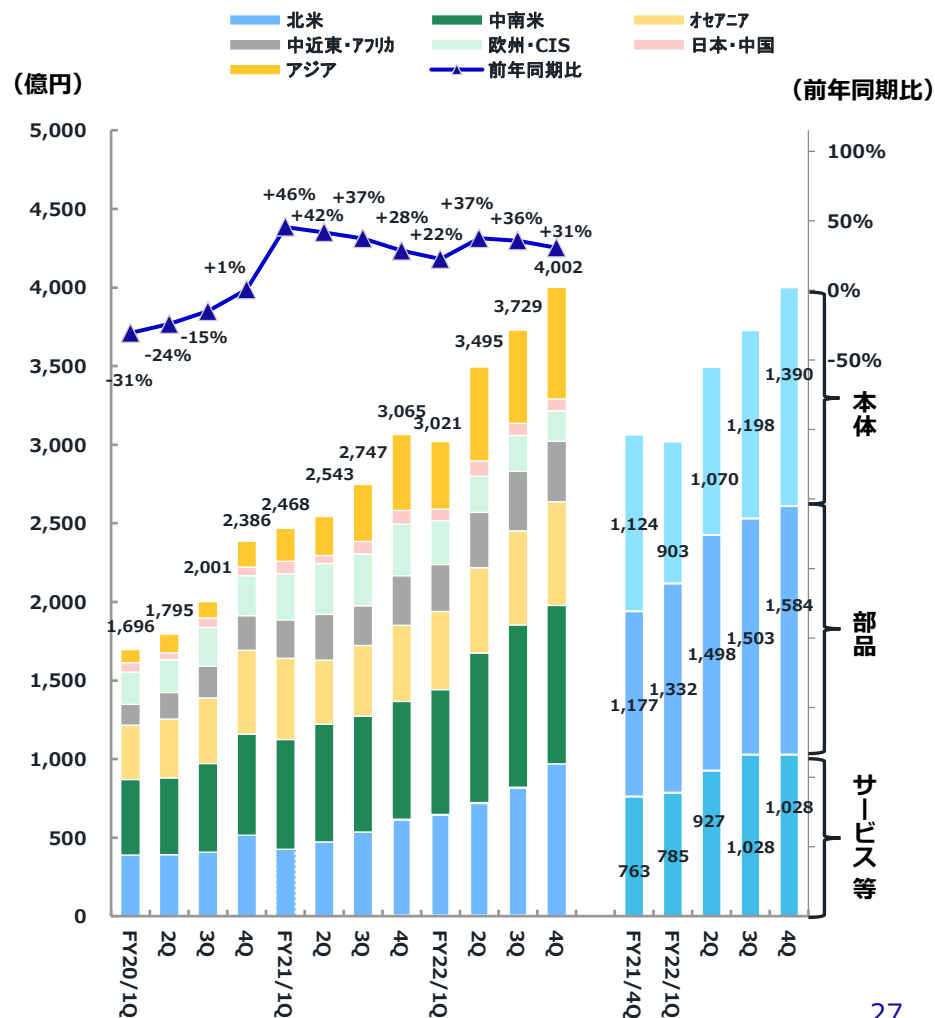
# <建設機械・車両> 鉱山機械の売上高の見通し

- ・2022年度の売上高は、前年比+32%増収の1兆4,246億円。CISで減少、アジア、北米などで増加。
- ・2023年度の売上高は、前年比▲4%減収の1兆3,708億円の見通し。

## 鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



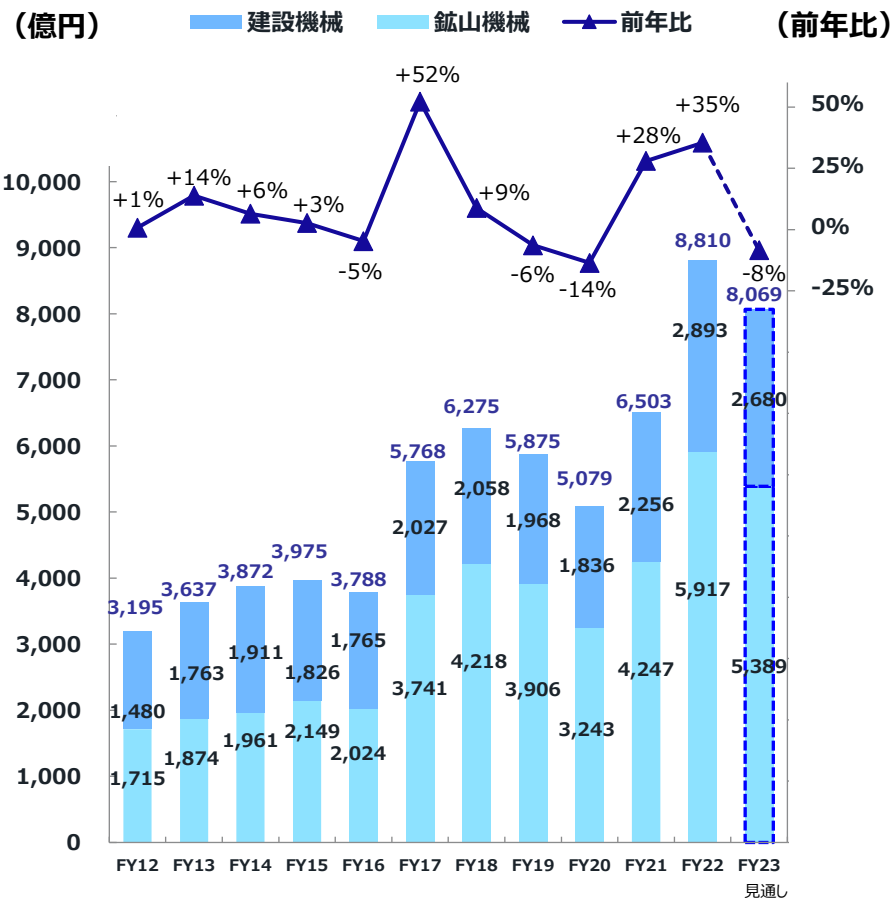
## 鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



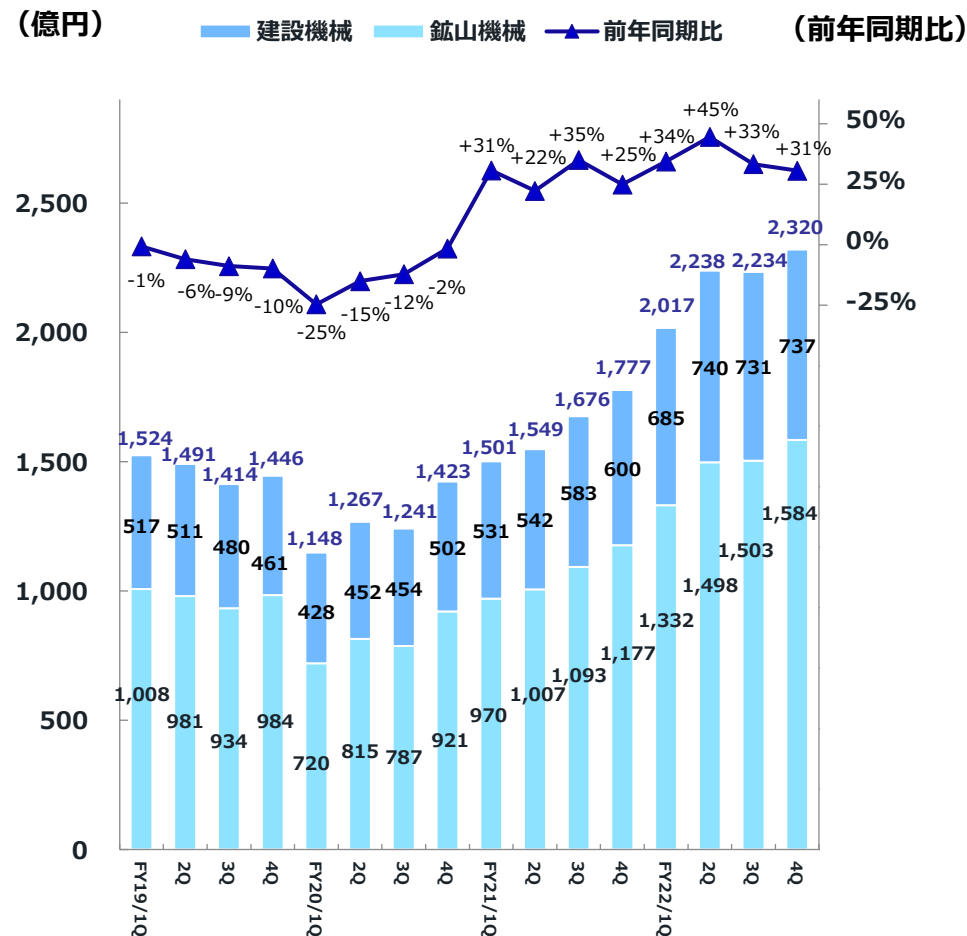
# <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

- ・2022年度の部品売上高は、前年比+35%増収の8,810億円。CIS、中国を除き増加。
- ・2023年度の部品売上高は、前年比▲8%減収の8,069億円の見通し。

## 部品 年度別売上高



## 部品 四半期別売上高

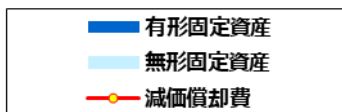
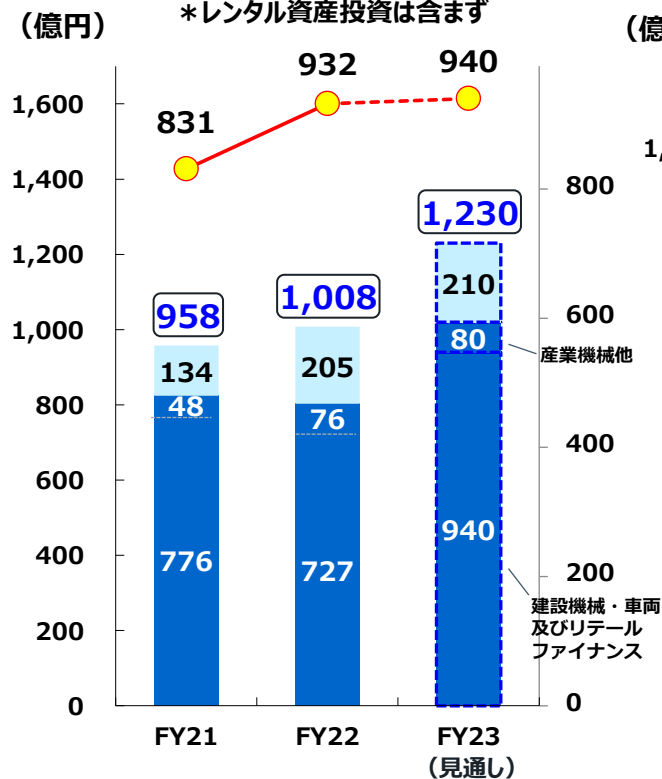


# 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

- ・設備投資は、主に生産拠点や販売拠点に対する投資の影響により、前年比増加の見通し。
- ・研究開発費は、電動化・自動化等への重点投資により、前年比増加の見通し。
- ・固定費は、構造改革の効果を織込むも、人件費・経費に対するインフレ影響や中計プロジェクトへの投資により、前年比増加の見通し。

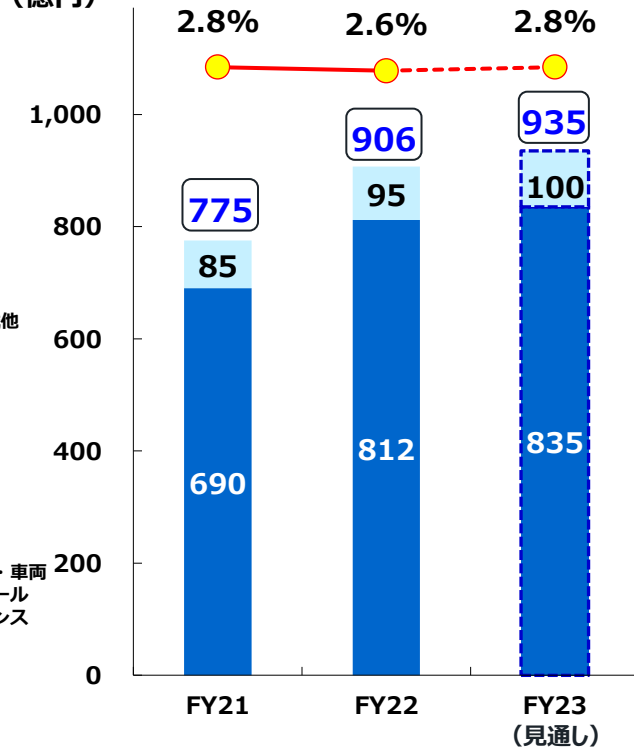
## 設備投資\* および減価償却費

\*レンタル資産投資は含まず



## 研究開発費

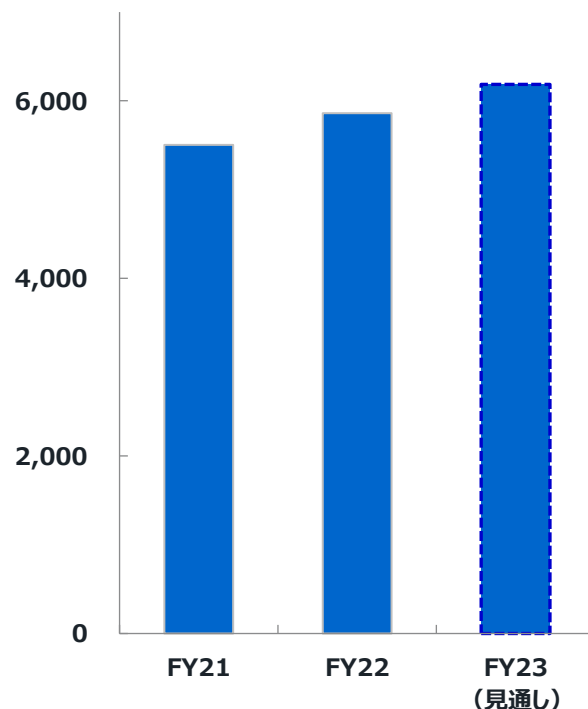
(億円)



## 固定費\*

\*FY21、FY22実績は、FY23見通しの為替レートで換算している。

(億円)



## 参考資料

# 2022年度 第4四半期（1-3月）の概況

- ・連結売上高は前年同期比+27.5%増収の1兆42億円。
- ・営業利益は前年同期比+54.5%増益の1,441億円、売上高営業利益率は+2.5ポイント上昇し14.3%。
- ・純利益は前年同期比+36.1%増益の945億円。

金額単位：億円	2022年1-3月	2023年1-3月	前年同期比	
	¥115.3/USD ¥129.7/EUR ¥82.7/AUD	¥132.4/USD ¥141.2/EUR ¥90.4/AUD	増減	増減率
連結売上高	7,876	10,042	+2,166	+27.5%
セグメント利益	950	1,473	+524	+55.1%
その他の営業収益（▲費用）	▲ 17	▲ 33	▲ 15	-
営業利益	933	1,441	+508	+54.5%
売上高営業利益率	11.8%	14.3%	+2.5ポイント	-
その他の収益（▲費用）	70	▲ 75	▲ 145	-
税引前純利益	1,003	1,366	+364	+36.3%
当社株主に帰属する当期純利益	694	945	+251	+36.1%

# 2022年度 第4四半期（1-3月）の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+28.9%増収の9,269億円。セグメント利益は前年同期比+59.8%増益の1,341億円。セグメント利益率は+2.8ポイント上昇し14.5%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+27.7%増収の221億円。セグメント利益は前年同期比+53.9%増益の60億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+13.4%増収の641億円。セグメント利益は前年同期比▲7.7%減益の69億円。

□ : 利益率 ( ): 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2022年1-3月		2023年1-3月		前年同期比			
					増減		増減率	
売上高	7,876		10,042		+2,166		+27.5%	
建設機械・車両	(7,182)	7,189	(9,235)	9,269	(+2,054)	+2,081	(+28.6%)	+28.9%
リテールファイナンス	(142)	173	(172)	221	(+30)	+48	(+20.9%)	+27.7%
産業機械他	(552)	565	(635)	641	(+83)	+76	(+15.0%)	+13.4%
消去	▲ 50		▲ 88		▲ 38		-	
セグメント利益	□ 12.1%	950	□ 14.7%	1,473	□ +2.6ポイント	+524	+55.1%	
建設機械・車両	□ 11.7%	839	□ 14.5%	1,341	□ +2.8ポイント	+502	+59.8%	
リテールファイナンス	□ 22.7%	39	□ 27.3%	60	□ +4.6ポイント	+21	+53.9%	
産業機械他	□ 13.3%	75	□ 10.8%	69	□ ▲2.5ポイント	▲ 6	▲7.7%	
消去または全社	▲ 3		3		+7		-	

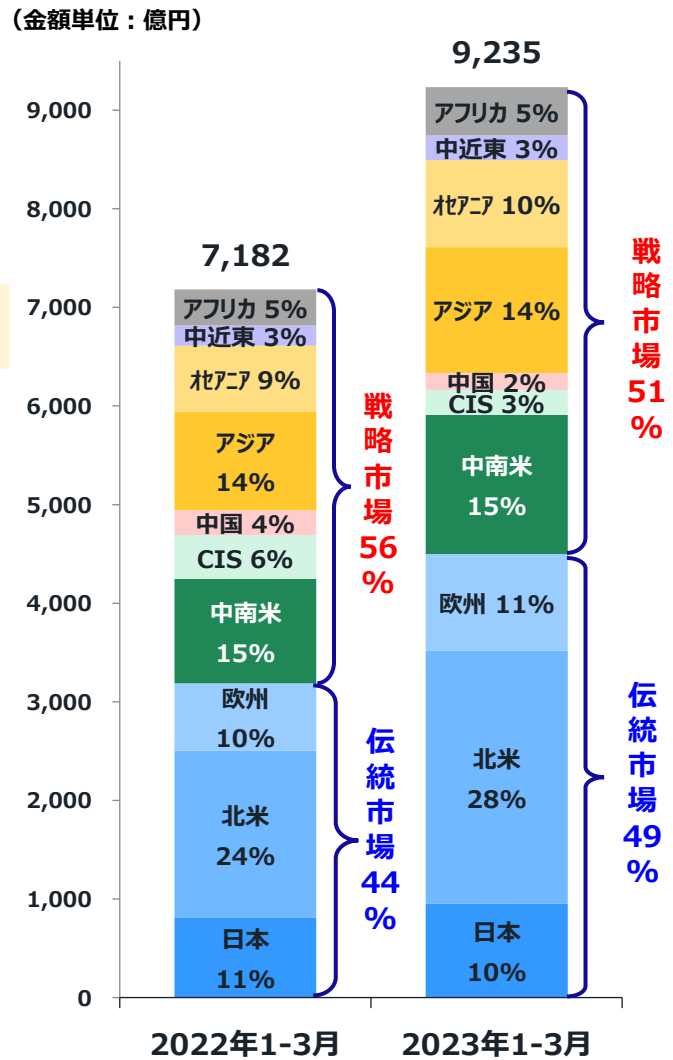
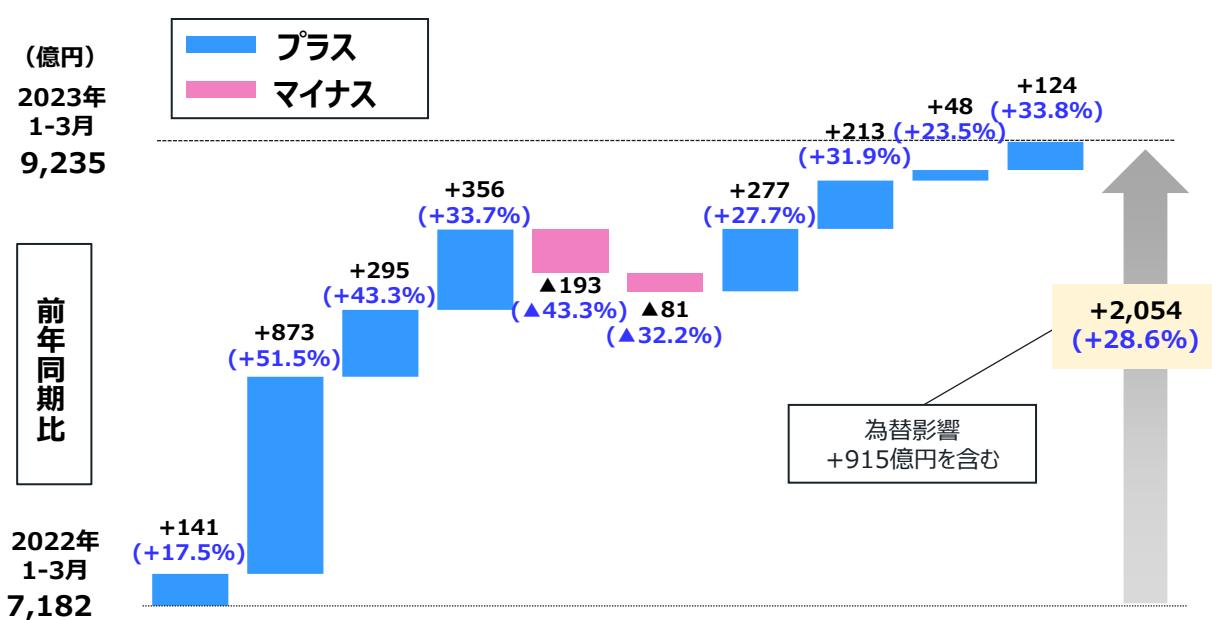
## 各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
為替差のプラス影響、物量増および販売価格の改善等により増収、増益。
- リテールファイナンス  
主に為替のプラス影響により増収、増益。
- 産業機械他  
自動車産業向けは、大型の鍛圧機械、工作機械の売上が増加したこと等により増収、増益。  
半導体産業向けは、エキシマレーザー関連の売上が好調であったこと等により増収、コスト増により減益。



# <建設機械・車両> 2022年度 第4四半期（1-3月）の地域別売上高（外部顧客向け）

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+28.6%増収の9,235億円。
- ・CIS、中国で減少。北米、中南米、欧州、アジアで大きく増加。
- ・伝統市場の比率は49%、戦略市場の比率は51%。



（億円）	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2022年 1-3月	809	1,697	682	1,057	446	252	999	668	204	367	7,182
2023年 1-3月	951	2,570	977	1,413	253	171	1,276	882	252	491	9,235
増減	+141	+873	+295	+356	▲193	▲81	+277	+213	+48	+124	+2,054

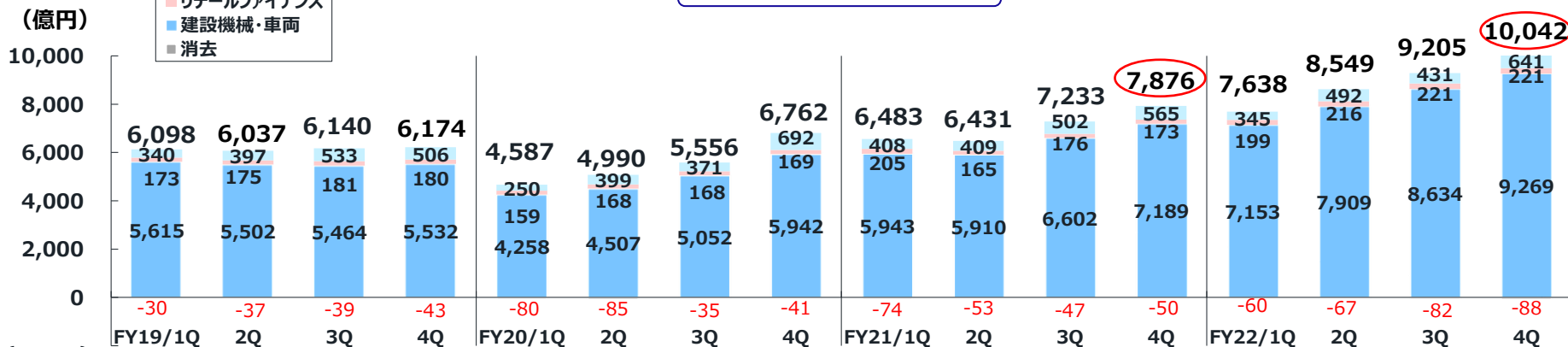
伝統市場

戦略市場

# 【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移

## 連結売上高

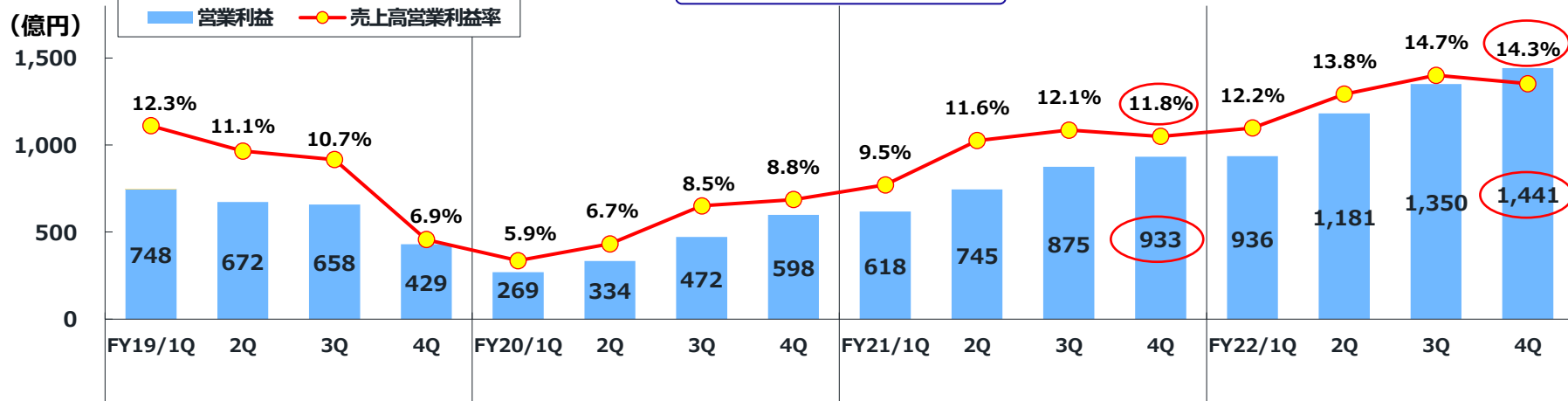
- 産業機械他
- リテールファイナンス
- 建設機械・車両
- 消去



為替  
レート

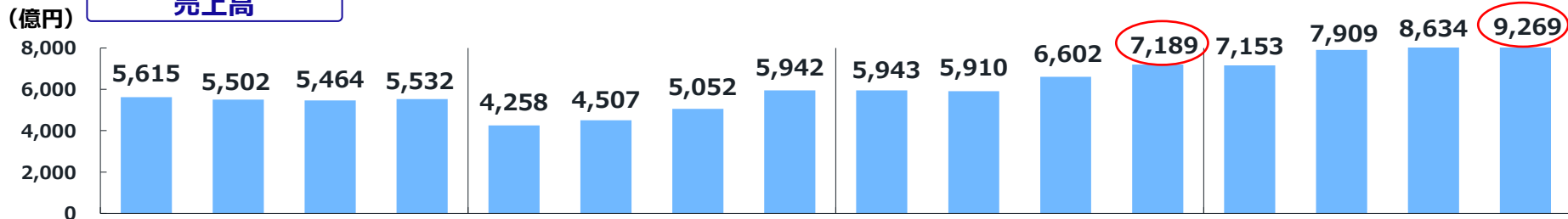
	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4

## 営業利益



# 【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

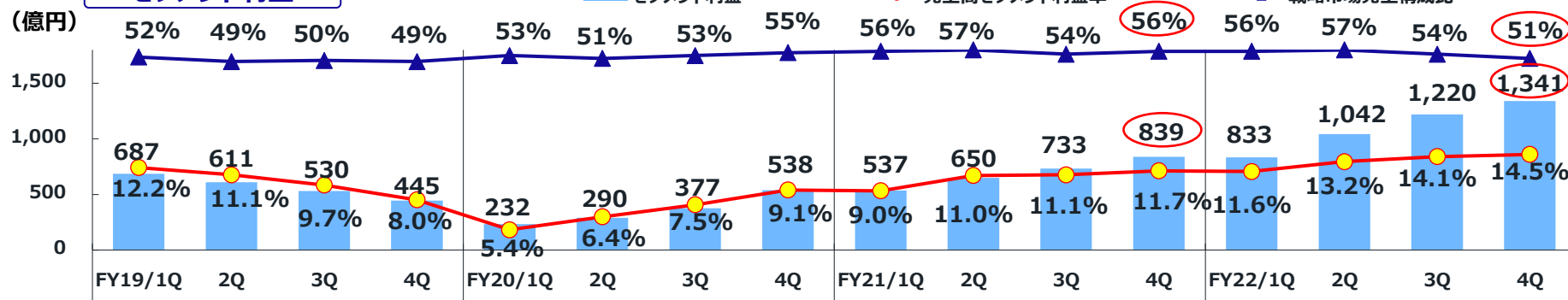
## 売上高



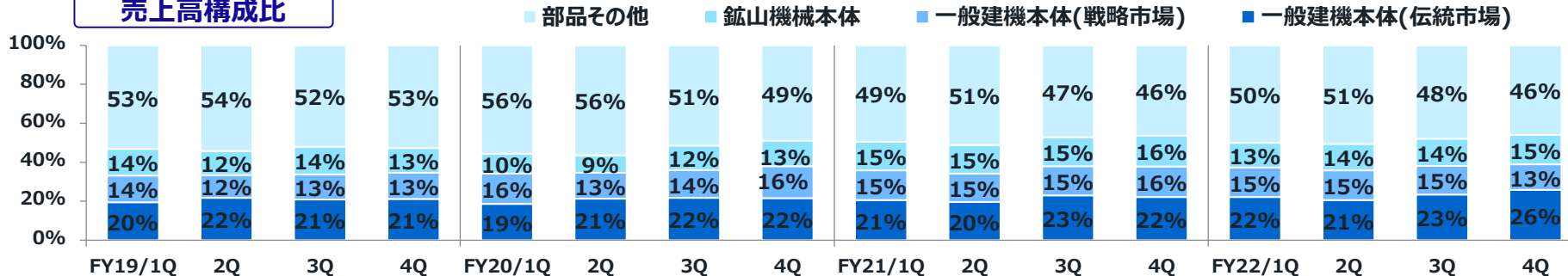
為替  
レート

	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4

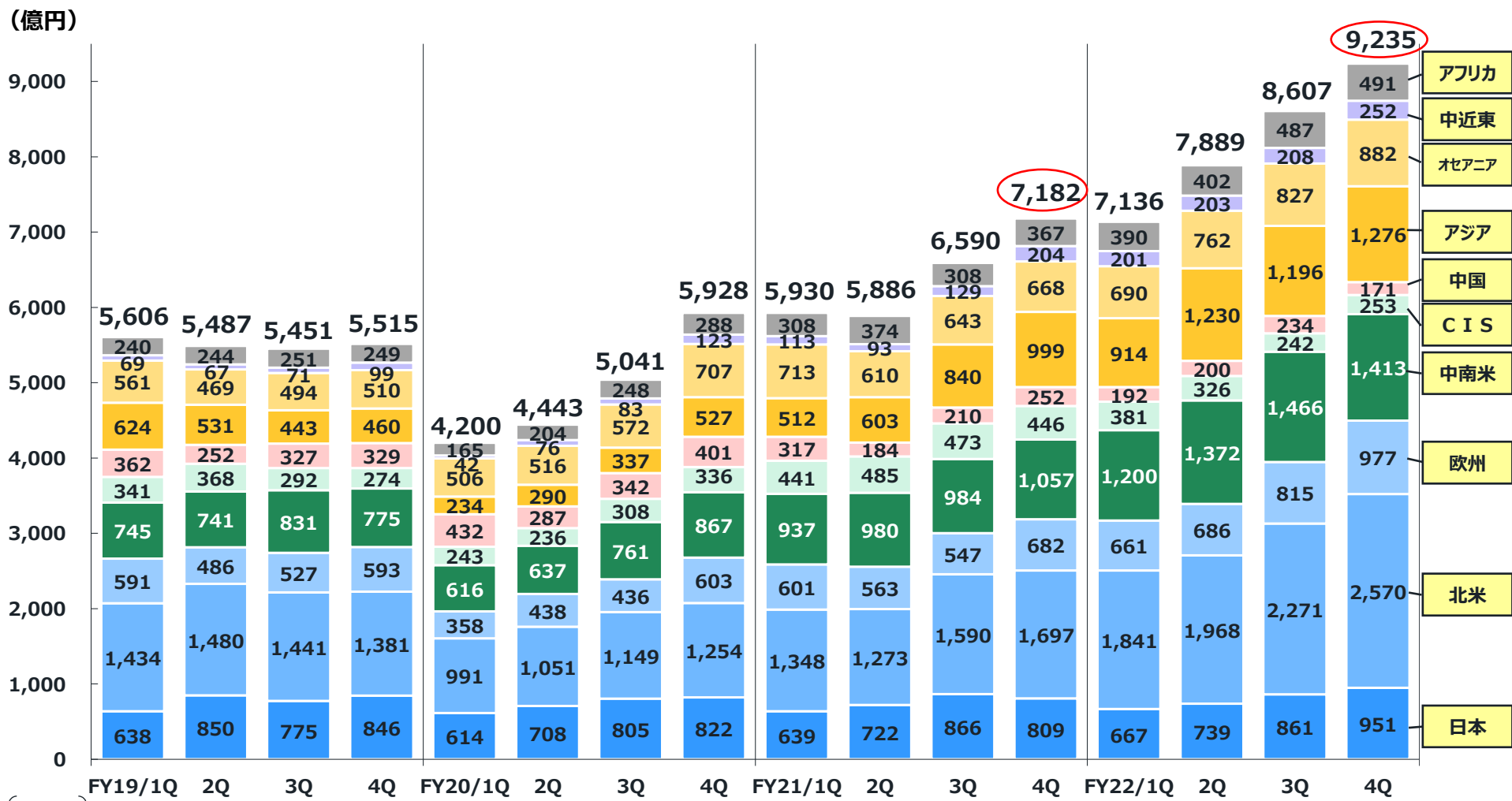
## セグメント利益



## 売上高構成比

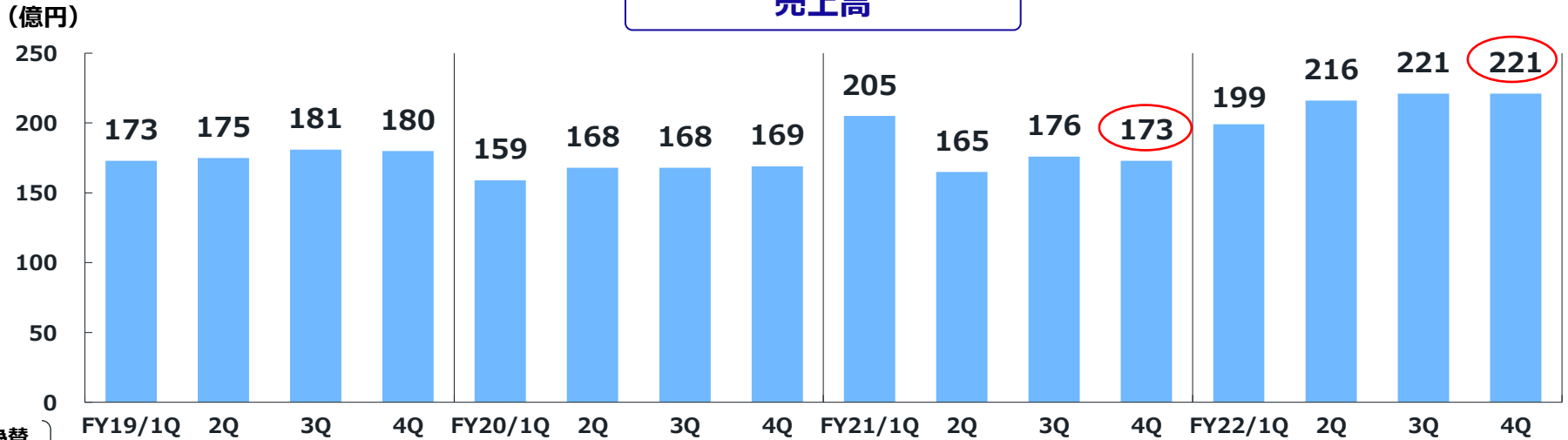


# 【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



# 【参考資料】<リテールファイナンス> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

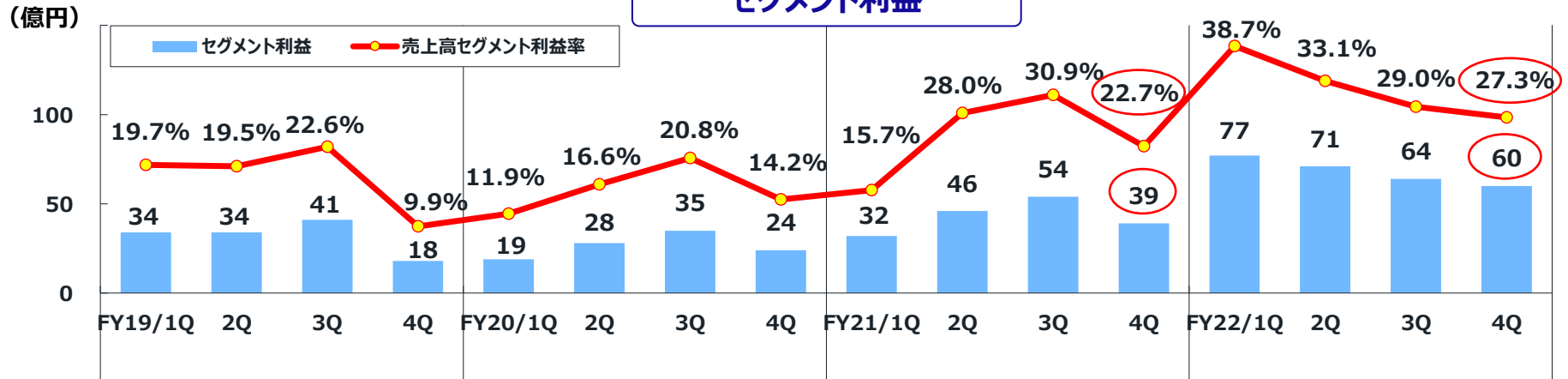
## 売上高



為替  
レート

	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q
¥/USD	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	104.9	104.8	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4
¥/EUR	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	123.4	127.3	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2
¥/AUD	77.2	74.0	73.9	72.6	69.2	76.1	75.2	80.6	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4

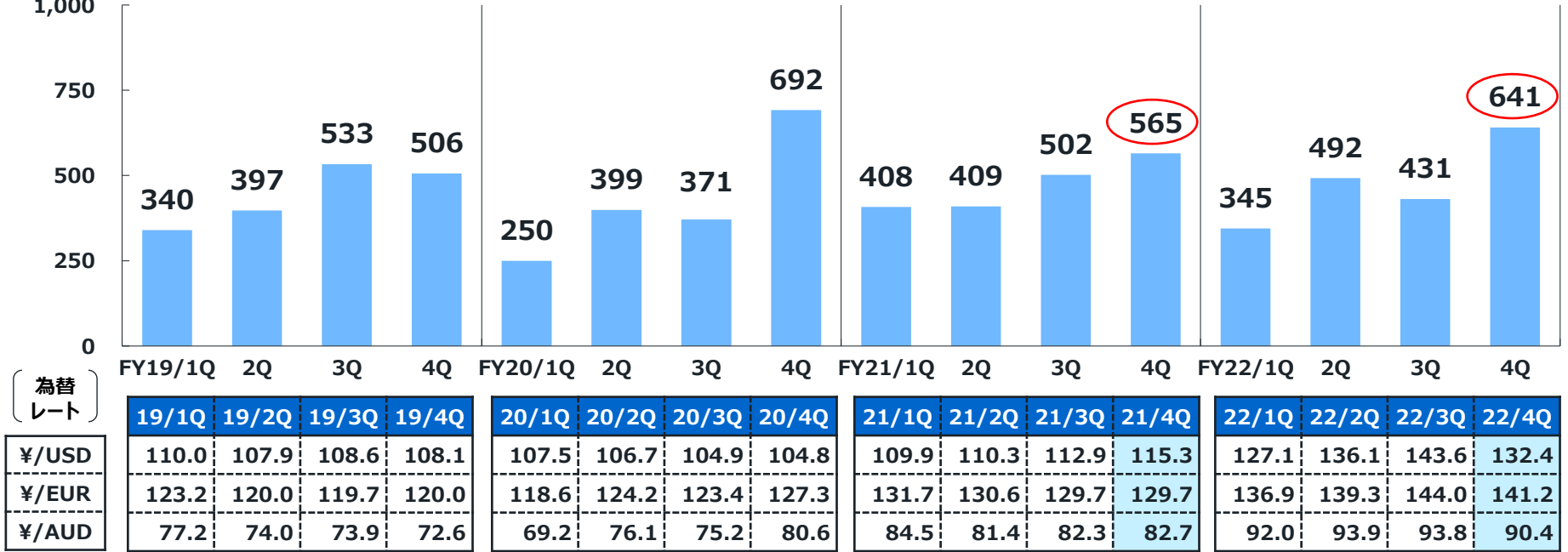
## セグメント利益



# 【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

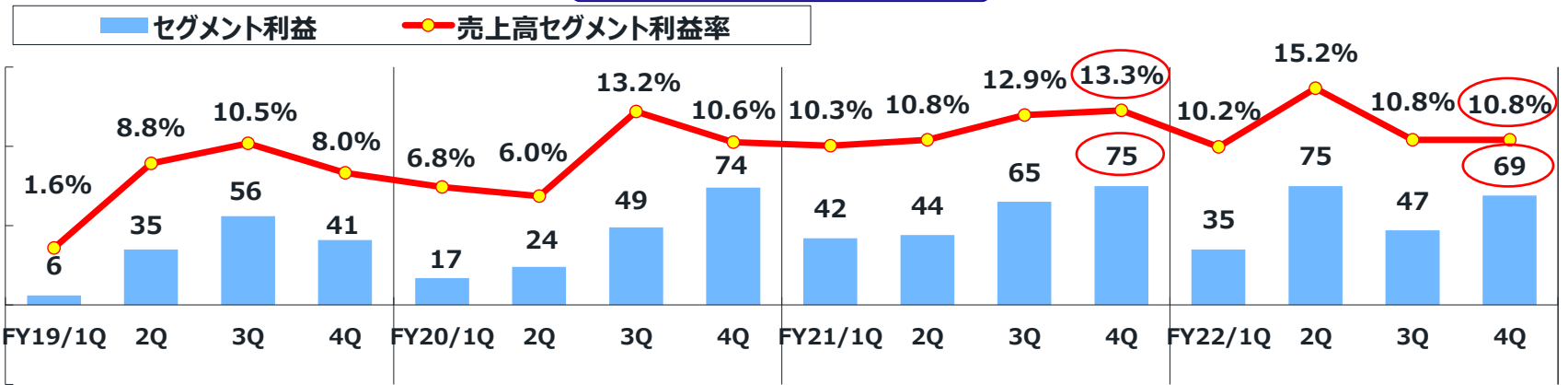
(億円)  
1,000

## 売上高

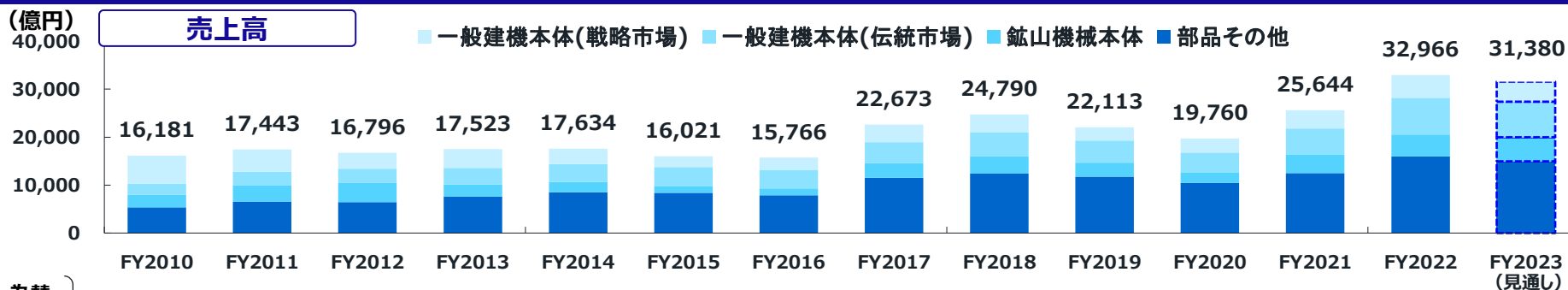


(億円)

## セグメント利益

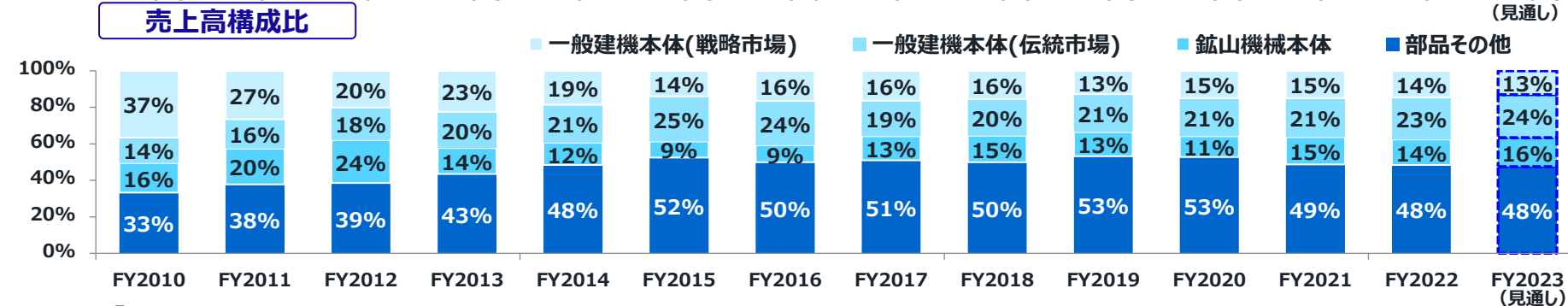
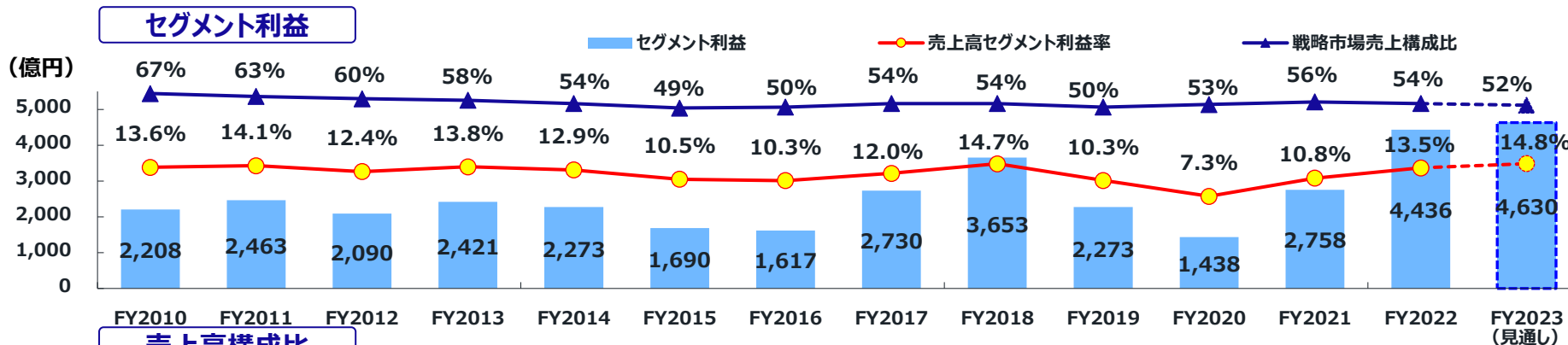


# 【参考資料】＜建設機械・車両＞売上高とセグメント利益の推移



為替レート

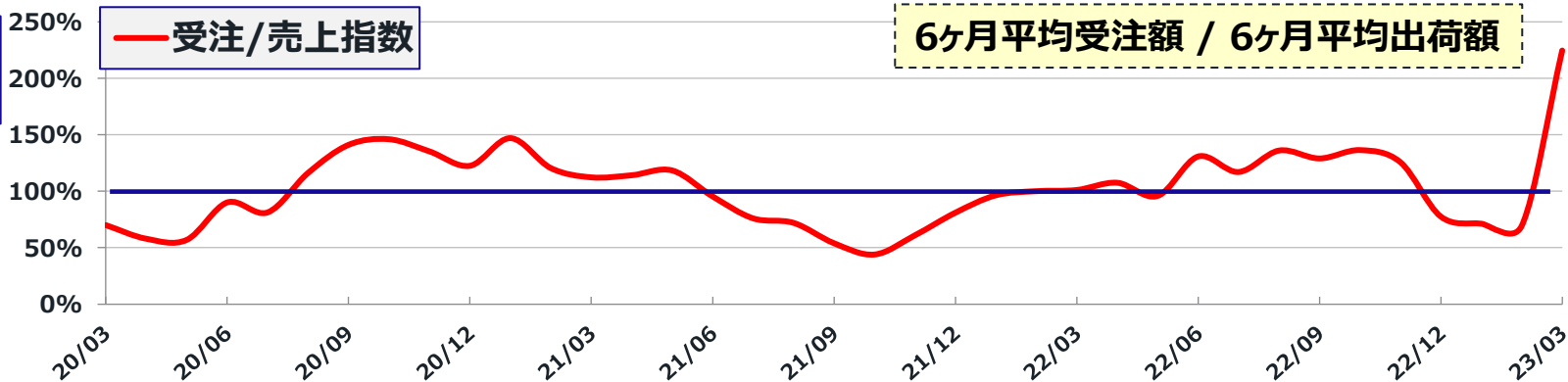
	FY2010	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023
¥/USD	85.0	79.0	82.5	99.6	109.7	120.8	108.6	111.2	110.6	108.7	106.0	112.1	134.8	125.0
¥/EUR	113.0	110.0	106.6	132.8	139.6	132.4	119.3	129.6	128.5	120.8	123.4	130.4	140.3	133.0
¥/AUD	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82.7	92.5	83.0



# 【参考資料】BBLレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

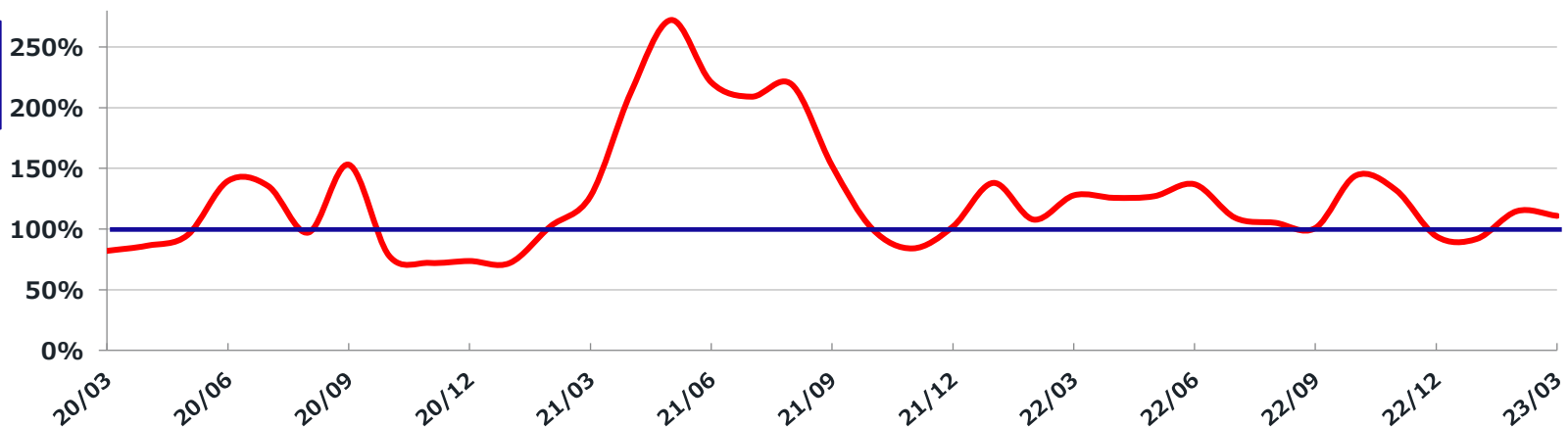
## コマツアメリカ (マイニング)

730E,830E  
860E  
930E,960E  
980E



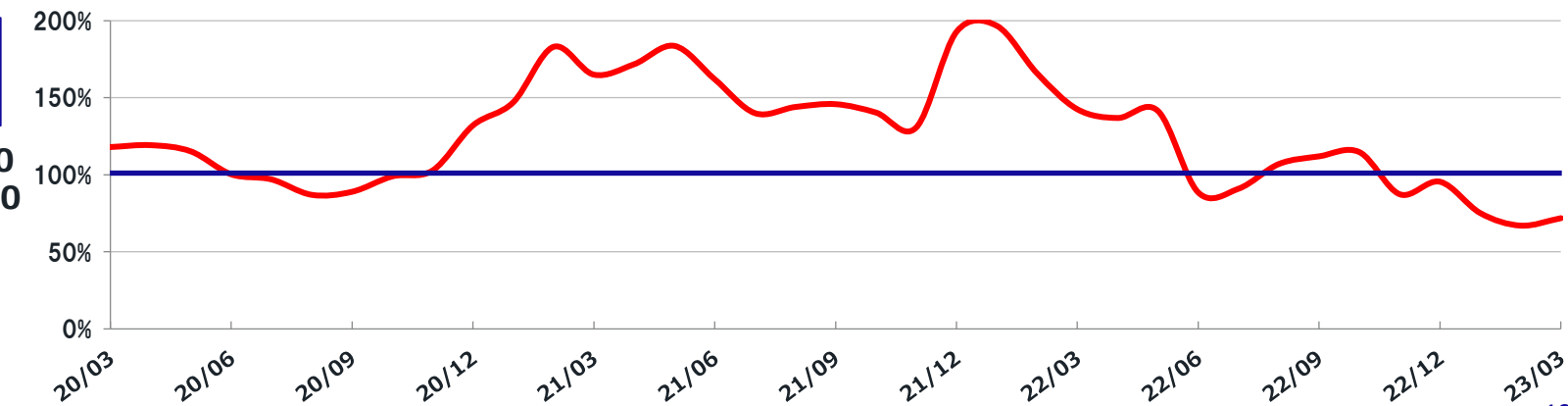
## コマツドイツ (マイニング)

PC3000  
PC4000  
PC5500  
PC7000  
PC8000



## コマツ単独 (マイニング)

HD785,HD1500  
PC2000,PC3400  
PC4000  
WA800 up  
D375A up  
GD825A up



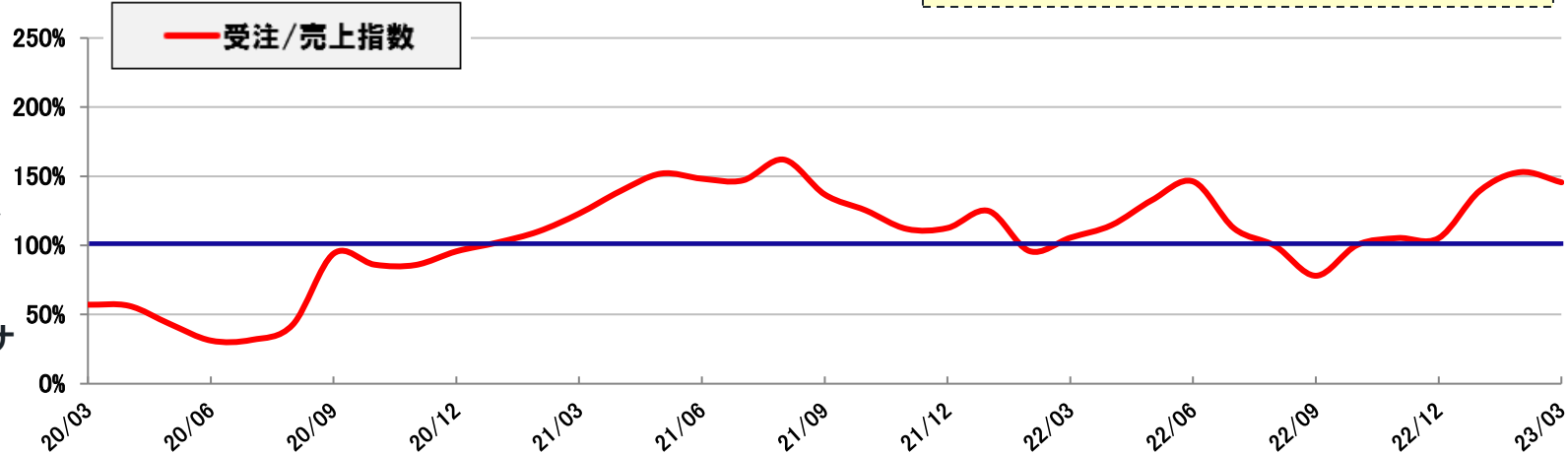


# 【参考資料】Bレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕KMC製の鉱山機械（本体）

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

## KMC (マイニング)

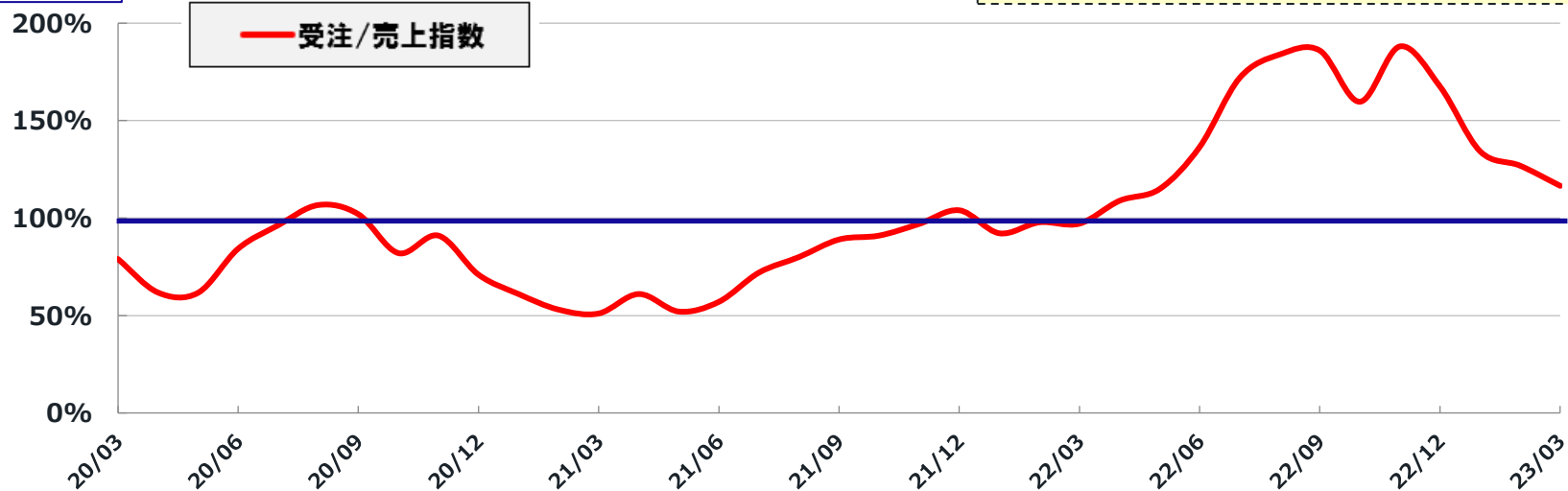
- <露天掘り>
- ロープショベル
- ブラストホールドリル
- ドラグライン他
- <坑内掘り>
- コンティニューアスマイナ
- シアラー
- ロードホールダンプ
- ドリルジャンボ他



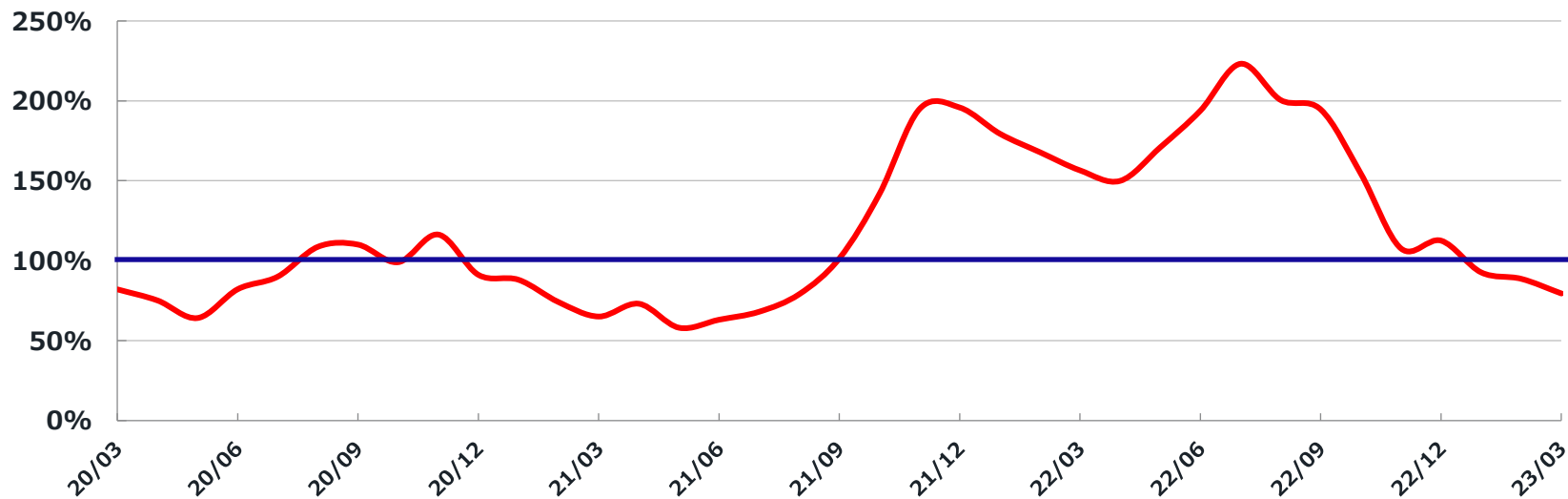
# 【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕産業機械

## コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

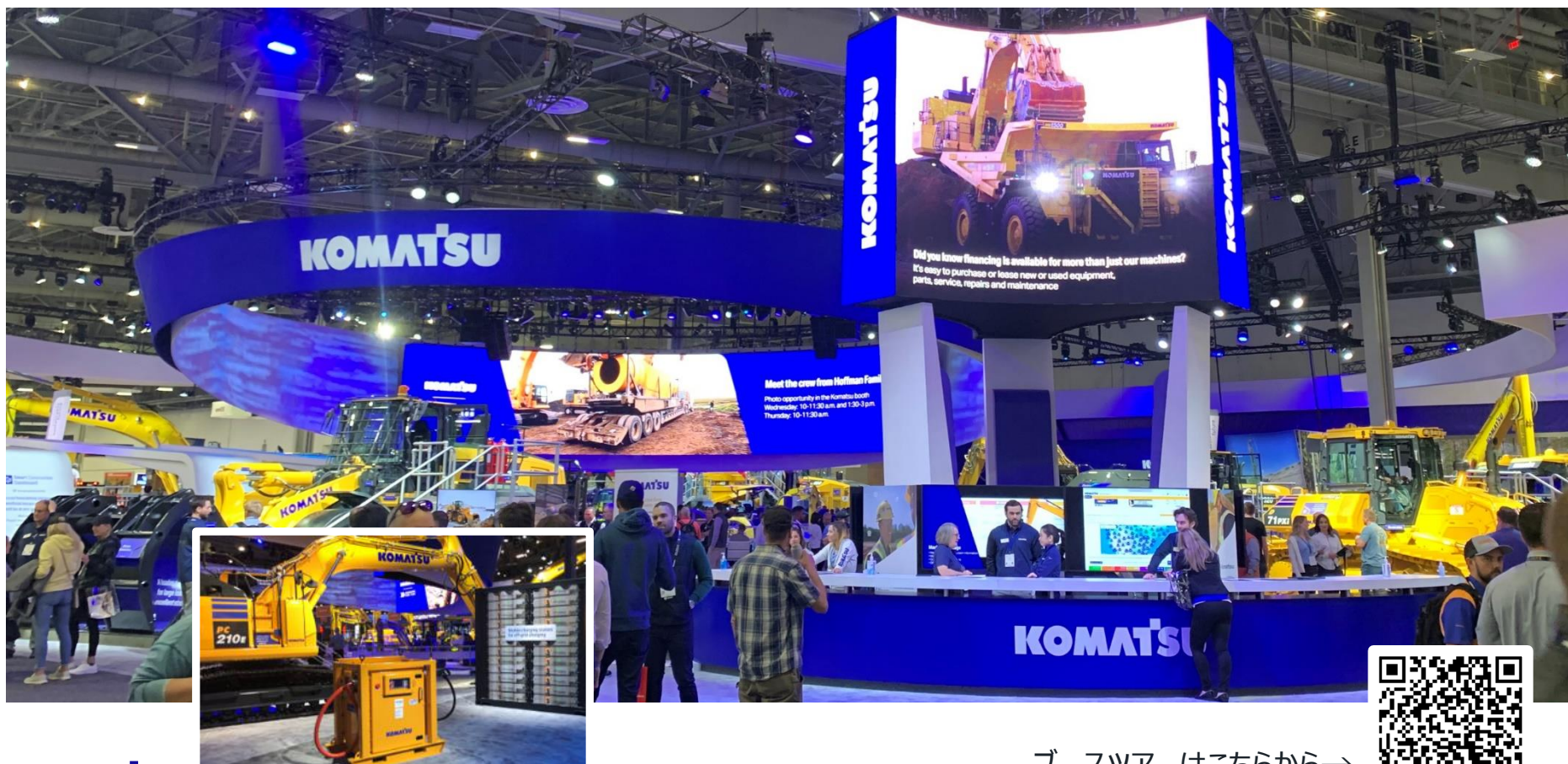


## コマツNTC



# -安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場の実現を加速- 「CONEXPO-CON/AGG 2023」に出展

- ・コマツは、3月14日から18日までの5日間、米国のラスベガスで開催された国際的な建設機械見本市「CONEXPO-CON/AGG 2023」に出展しました。
  - ・今回の展示会では、最新の自動化技術やソリューション、カーボンニュートラル実現に貢献する電動化技術をご紹介します。また電動化建設機械の普及を目指して、電源がない環境での充電ソリューションのコンセプトを初めて出展しました。
- (2023年3月7日 ニュースリリース)



**KOMATSU**

PC210E、バッテリーチャージャ 及び プロテラ社製バッテリーバンク

ブースツアーはこちらから→



# -安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場を実現- 欧州工場の充填燃料をHVO燃料へ切り替えることを決定

- ・コマツは、欧州地域の工場生産される建設・鉱山機械の充填燃料を、ディーゼル燃料から水素化植物油（HVO燃料 \*1）に順次切り替えることを決定しました。
- ・2023年4月より、ドイツの工場生産で切り替えを開始し、順次、他の欧州工場でも切り替えを進めます。このたびの取り組みを通じて、お客さまへもHVO燃料の環境性を訴求し、建設・鉱山業界全体でのカーボンニュートラルの実現と持続可能な未来の創造に貢献していきます。

（2023年4月20日 ニュースリリース）



## -安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場の実現を加速- 建設機械向け遠隔操作システムを開発、お客さまへの提供を開始

- ・コマツとその子会社のEARTH BRAINは、建設機械向けの遠隔操作システムを共同で開発し、2023年3月よりお客さまへの提供を開始しました。
- ・2023年度上期を目途に量産に向けた現場での検証を完了し、段階的に市場導入を進め、お客さまの現場の安全性・生産性の向上に貢献していきます。 (2023年4月14日 ニュースリリース)



EARTH BRAINが開発した  
遠隔操作用コックピット

建設機械から送られた高精細映像により、前後左右や作業機を確認しながら、実際の運転席同様に、臨場感のある遠隔操作を行うことができます



## 株主・投資家情報

<https://www.komatsu.jp/ja/ir>

## 中期経営計画

[https://www.komatsu.jp/ja/newsroom/2022/20220428\\_4](https://www.komatsu.jp/ja/newsroom/2022/20220428_4)

## コマツレポート（統合報告書）

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/annual>

## IR-Day

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/results/2022>

---

### 【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。